

| 新 | 旧 |
|---|---|
| <p>[別紙]</p> <p style="text-align: center;">建築指針 (品川区における建築物等の福祉に関する整備要綱)</p> <p style="text-align: center;">目 次</p> <ul style="list-style-type: none"> ・敷地内の通路 1 ・主要な出入口 2 ・傾斜路 5 ・廊下 7 ・階段 9 ・手すり 12 ・便所（車椅子利用者用便房） 14 ・便所（一般用） 20 ・エレベーター 22 ・エスカレーター 24 ・駐車場 27 ・標示・誘導 29 資料 幅員と広さに関する基本的な数値 33 参考図出典元一覧（東京都施設整備マニュアル令和5年10月改訂版 該当ページ）参考図の出典一覧） 34 | <p style="text-align: center;">建築指針 (品川区における建築物等の福祉に関する整備要綱)</p> <p style="text-align: center;">目 次</p> <ul style="list-style-type: none"> ・敷地内の通pp 1 ・主要な出入口 2 ・傾斜路 4 ・廊下 6 ・階段 8 ・手すり 11 ・便所（だれでもトイレ） 13 ・便所（一般用） 19 ・エレベーター 21 ・エスカレーター 23 ・駐車場 25 ・標示・誘導 27 資料 幅員と広さに関する基本的な数値 31 |

〔敷地内の通路〕

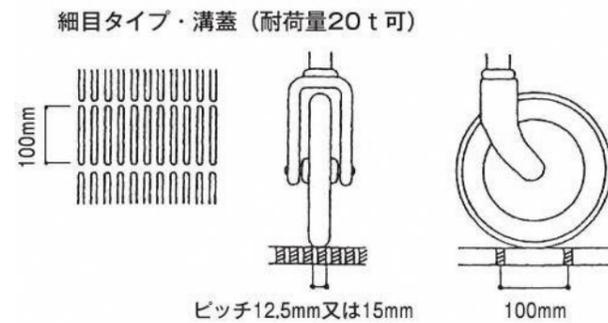
道路・車椅子使用者用駐車施設から主要な出入口に至る通路のうち1以上は、次に定める構造とすること。

- (1) 道路の有効幅は、1.35m以上とすること。ただし、敷地等の状況によりやむを得ない場合は、1.2m以上とすることができる。
- (2) 段差を設けないこと。ただし、別項の〔傾斜路〕に定める構造の傾斜路を設けている場合、または機械式昇降装置を設置している場合は、この限りでない。
- (3) 表面は、滑りにくい仕上げとすること。
- (4) アプローチの通路面には、原則として排水溝などは設けないこと。やむを得ず設ける場合は、溝蓋を設け、仕上げ・穴の大きさ等は、車椅子使用者・杖使用者等の通行に支障のないものとする。

《 参 考 図 》

【図1.1】 横断溝の仕様例

車椅子のキャスターと溝蓋の拡大図



〔敷地内の通路〕

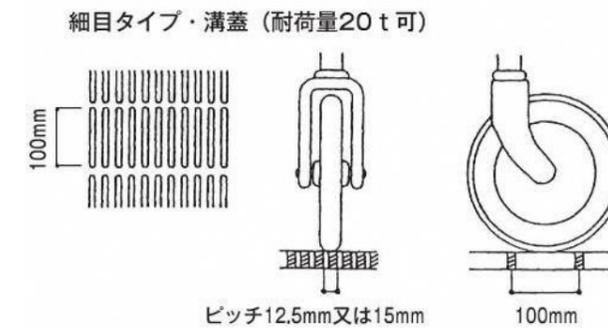
道路から主要な出入口に至る通路のうち1以上は、次に定める構造とすること。

- (1) 有効幅は、1.35m以上とすること。ただし、敷地等の状況によりやむを得ない場合は、1.2m以上とすることができる。
- (2) 段差を設けないこと。ただし、別項の〔傾斜路〕に定める構造の傾斜路を設けている場合、または機械式昇降装置を設置している場合は、この限りでない。
- (3) 表面は、滑りにくい仕上げとすること。
- (4) アプローチの通路面には、原則として排水溝などは設けないこと。やむを得ず設ける場合は、溝蓋を設け、仕上げ・穴の大きさ等は、車いす使用者・杖使用者等の通行に支障のないものとする。

《 参 考 図 》

【図1.1】 横断溝の仕様例

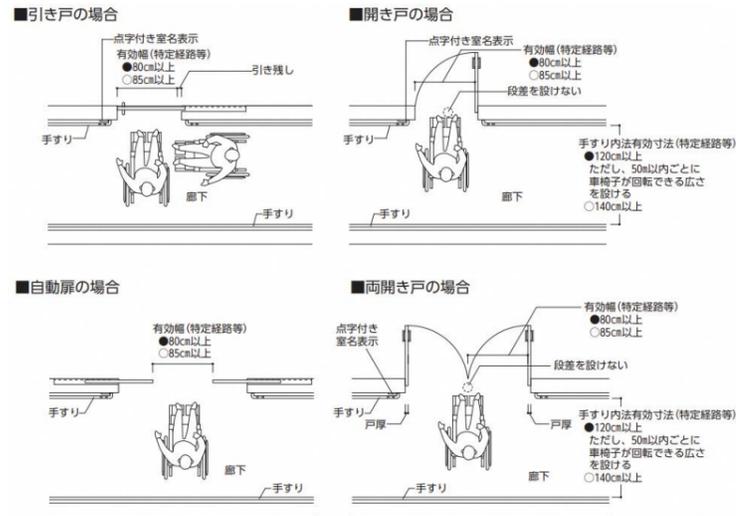
車いすのキャスターと溝蓋の拡大図



| 新 | 旧 |
|--|---|
| <p data-bbox="201 258 448 296">〔主要な出入口〕</p> <p data-bbox="181 394 970 424">屋外に通ずる主要な出入口のうち1以上は、次に定める構造とすること。</p> <ol data-bbox="181 575 1424 1780" style="list-style-type: none"> (1) 有効幅は、1m以上とすること。ただし、構造上やむを得ない場合は、85cm以上とすることができる。 (2) 戸は、自動的に開閉する構造または<u>車椅子</u>使用者が円滑に開閉して通過できる構造とすること。 (3) 開閉動作の難易度からみると、引き戸が開き戸より簡単である。一般に推奨されている順位としては、①自動式引き戸、②手動式引き戸の順である。 (4) 回転ドアは、基本的に<u>車椅子</u>での利用は困難であり、視覚障害者や歩行困難者も危険が伴いやすいため避けること。やむを得ず設ける場合は、それ以外の形式の扉を併設し、視覚障害者の誘導にも十分配慮すること。 (5) 手動式の開き戸とする場合は、<u>車椅子</u>使用者が通過しやすいよう、袖壁と開閉スペースを確保すること。 (6) ドアハンドルは、<u>車椅子</u>使用者や子ども達にも使いやすい高さ(90cm程度)に設けること。また、円形のもの、上肢や手に障害のある人が使いにくいので避けること。 (7) 床面には、高齢者・障害者等の通行の支障となる段差を設けないこと。マットは、埋込式とすること。ハケ状のものは、足を取られたり、<u>車椅子</u>のキャスターが沈み込んだりするので用いないこと。 (8) 外部出入口の建具は、雨水の浸入を防ぐ関係から多少の段差が生じてくる場合がある。その際には、すりつけを設ける等<u>車椅子</u>の通行に支障とならない配慮を行うこと。ただし、2cm以下の段差はこの限りでない。 (9) 床の表面は、滑りにくい仕上げとすること。 | <p data-bbox="1561 195 1807 233">〔主要な出入口〕</p> <p data-bbox="1543 327 2332 357">屋外に通ずる主要な出入口のうち1以上は、次に定める構造とすること。</p> <ol data-bbox="1543 508 2789 1717" style="list-style-type: none"> (1) 有効幅は、1m以上とすること。ただし、構造上やむを得ない場合は、85cm以上とすることができる。 (2) 戸は、自動的に開閉する構造または<u>車いす</u>使用者が円滑に開閉して通過できる構造とすること。 (3) 開閉動作の難易度からみると、引き戸が開き戸より簡単である。一般に推奨されている順位としては、①自動式引き戸、②手動式引き戸の順である。 (4) 回転ドアは、基本的に<u>車いす</u>での利用は困難であり、視覚障害者や歩行困難者も危険が伴いやすいため避けること。やむを得ず設ける場合は、それ以外の形式の扉を併設し、視覚障害者の誘導にも十分配慮すること。 (5) 手動式の開き戸とする場合は、<u>車いす</u>使用者が通過しやすいよう、袖壁と開閉スペースを確保すること。 (6) ドアハンドルは、<u>車いす</u>使用者や子ども達にも使いやすい高さ(85cm程度)に設けること。また、円形のもの、上肢や手に障害のある人が使いにくいので避けること。 (7) 床面には、高齢者・障害者等の通行の支障となる段差を設けないこと。マットは、埋込式とすること。ハケ状のものは、足を取られたり、<u>車いす</u>のキャスターが沈み込んだりするので用いないこと。 (8) 外部出入口の建具は、雨水の浸入を防ぐ関係から多少の段差が生じてくる場合がある。その際には、すりつけを設ける等<u>車いす</u>の通行に支障とならない配慮を行うこと。ただし、2cm以下の段差はこの限りでない。 (9) 床の表面は、滑りにくい仕上げとすること。 |

《 参考図 》

【図2.1】 戸幅の寸法

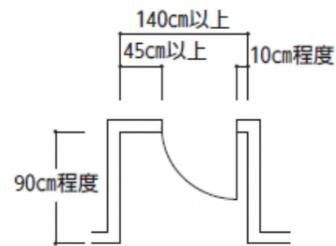


東京都福祉のまちづくり条例
●整備基準(遵守基準)
○整備基準(努力基準)

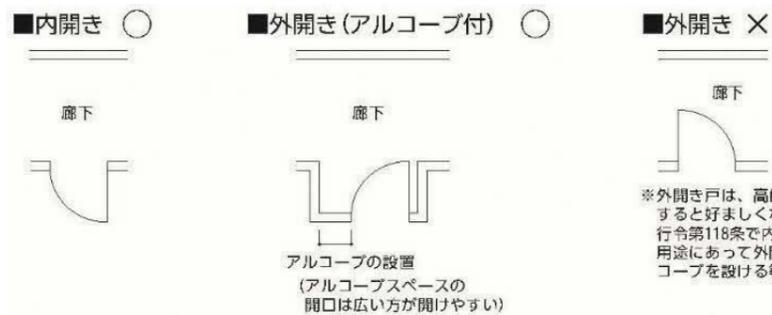
【図2.2】 引き戸への配慮



【図2.3】 アルコーブの各部寸法



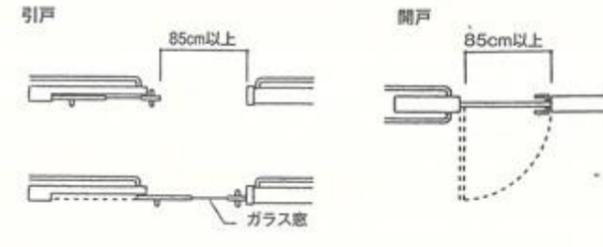
【図2.4】 開き戸への配慮



※外開き戸は、高齢者・障害者等の利用を考慮すると好ましくない。そのため建築基準法施行令第118条で内開き戸が禁止されている建築用途にあって外開き戸を設置する際にはアルコーブを設ける等の配慮が必要である。

《 参考図 》

【図2.1】 各部屋の出入り口の形式



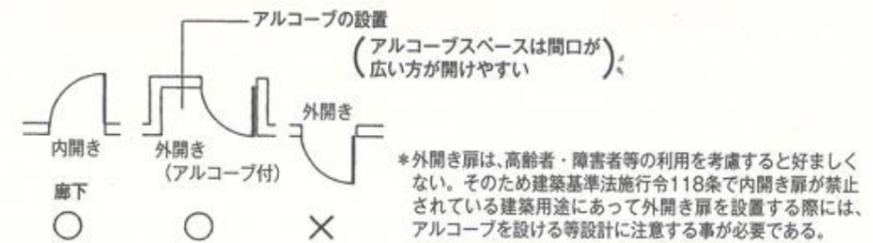
【図2.2】 引戸の形式



【図2.3】 車いす使用者のための開閉スペース

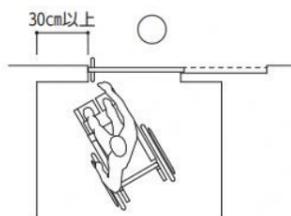


【図2.4】 開き戸への配慮

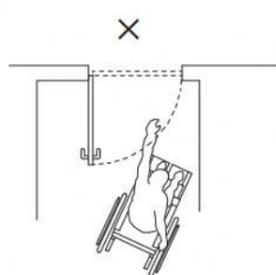
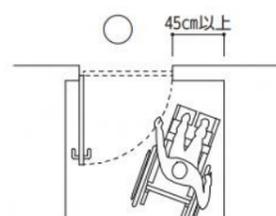


【図2.5】車椅子使用者のための開閉スペースの設置

■引き戸の場合



■開き戸の場合

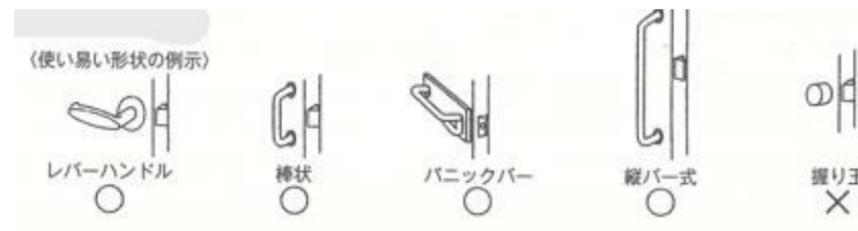


※袖壁は、引き戸の場合は30cm以上、開き戸の場合は45cm以上を確保すると、車椅子使用者が戸を開閉しやすい。また、必要となる袖壁と開閉スペースは、戸の開閉機構、取っ手の形状、周囲の状況等によって異なるため、設計にあたってはそれらを考慮したうえで、袖壁と開閉スペースを確保する。

【図2.6】取っ手の使いやすさ



【図2.5】取っ手の形式

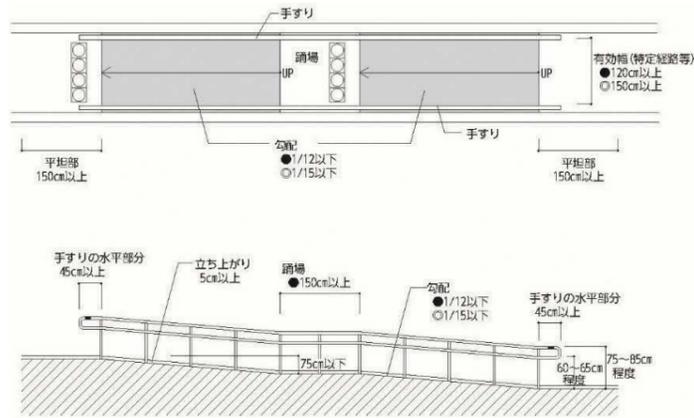


| 新 | 旧 |
|--|--|
| <p data-bbox="201 195 338 233">〔傾斜路〕</p> <p data-bbox="181 327 614 359">傾斜路は、次に定める構造とすること。</p> <p data-bbox="181 449 1412 520">(1) 有効幅は、屋内にあっては1.2m以上、屋外にあっては<u>1.4</u>m以上（敷地の状況等によりやむを得ない場合は、1.2m以上）とすること。ただし、段を併設する場合は、90cm以上とすることができる。</p> <p data-bbox="181 611 1139 642">(2) こう配は、屋内にあっては12分の1以下、屋外にあっては20分の1以下とすること。</p> <p data-bbox="181 669 1406 741">ただし、屋内、屋外とも傾斜路の高さが16cm以下の場合は8分の1以下、屋外において傾斜路の高さが75cm以下の場合または敷地の状況等によりやむを得ない場合は、12分の1以下とすることができる。</p> <p data-bbox="181 831 1412 947">(3) 高さ75センチメートルを越える傾斜路にあっては、高さ75cm以内ごとに長さ1.5m以上の踊場を設けること。傾斜路の始点、終点、曲がりの部分、折り返し部分および他の通路との交差部分にも1.5m以上の踊場を設けること。</p> <p data-bbox="181 1037 1205 1068">(4) 手すりを両側に設けること。構造上やむを得ない場合は、少なくとも片側に設けること。</p> <p data-bbox="201 1096 504 1127">→別項の〔手すり〕を参照</p> <p data-bbox="181 1218 715 1249">(5) 床の表面は、滑りにくい仕上げとすること。</p> <p data-bbox="181 1339 1412 1411">(6) <u>車椅子</u>の脱輪などを防止するため、両側に側壁または35cm以上の立ち上がりを設けること。ただし、手すりを設ける場合は、5cm以上とすることができる。</p> <p data-bbox="181 1501 1412 1572">(7) 傾斜路は、踊場および傾斜路に接する廊下等の色と明度の差の大きい色とすること等により、これらと識別しやすいものとする。</p> | <p data-bbox="1567 195 1703 233">〔傾斜路〕</p> <p data-bbox="1546 327 1979 359">傾斜路は、次に定める構造とすること。</p> <p data-bbox="1546 449 2778 520">(1) 有効幅は、屋内にあっては1.2m以上、屋外にあっては<u>1.35</u>m以上（敷地の状況等によりやむを得ない場合は、1.2m以上）とすること。ただし、段を併設する場合は、90cm以上とすることができる。</p> <p data-bbox="1546 611 2504 642">(2) こう配は、屋内にあっては12分の1以下、屋外にあっては20分の1以下とすること。</p> <p data-bbox="1546 669 2772 741">ただし、屋内、屋外とも傾斜路の高さが16cm以下の場合は8分の1以下、屋外において傾斜路の高さが75cm以下の場合または敷地の状況等によりやむを得ない場合は、12分の1以下とすることができる。</p> <p data-bbox="1546 831 2778 947">(3) 高さ75センチメートルを越える傾斜路にあっては、高さ75cm以内ごとに長さ1.5m以上の踊り場を設けること。傾斜路の始点、終点、曲がりの部分、折り返し部分および他の通路との交差部分にも1.5m以上の踊り場を設けること。</p> <p data-bbox="1546 1037 2570 1068">(4) 手すりを両側に設けること。構造上やむを得ない場合は、少なくとも片側に設けること。</p> <p data-bbox="1567 1096 1869 1127">→別項の〔手すり〕を参照</p> <p data-bbox="1546 1218 2080 1249">(5) 床の表面は、滑りにくい仕上げとすること。</p> <p data-bbox="1546 1339 2778 1411">(6) <u>車いす</u>の脱輪などを防止するため、両側に側壁または35cm以上の立ち上がりを設けること。ただし、手すりを設ける場合は、5cm以上とすることができる。</p> <p data-bbox="1546 1501 2778 1572">(7) 傾斜路は、踊場および傾斜路に接する廊下等の色と明度の差の大きい色とすること等により、これらと識別しやすいものとする。</p> |

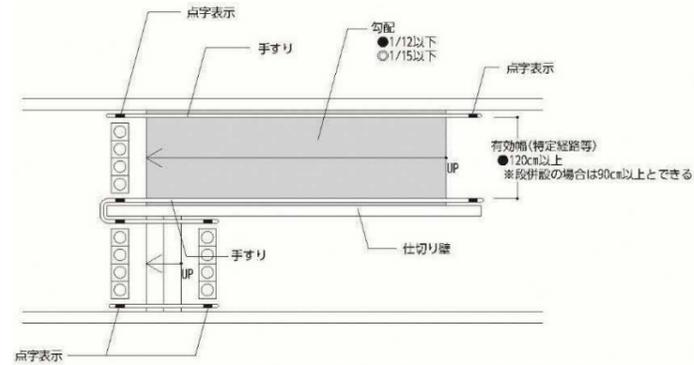
新

《 参考図 》

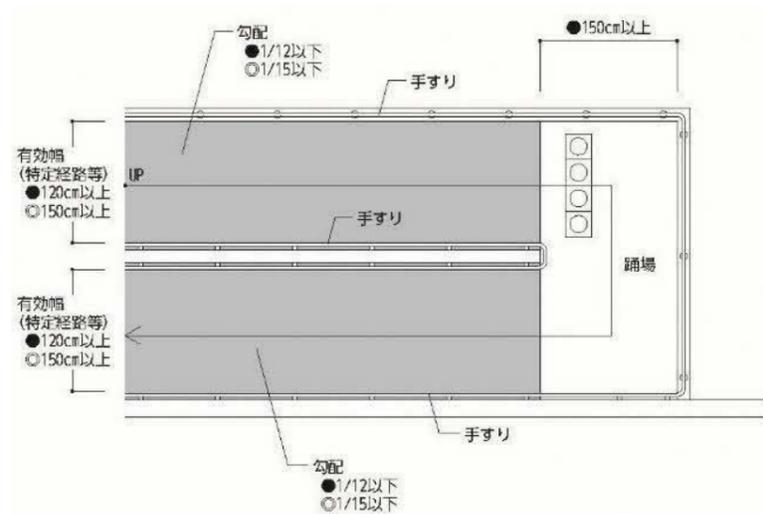
【図3.1】 傾斜路の仕様



【図3.2】 段併設の例



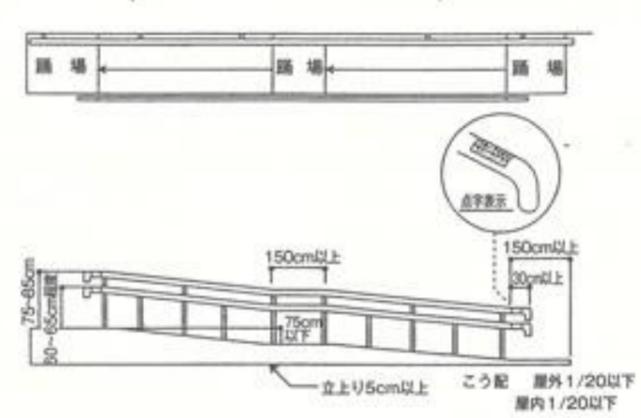
【図3.3】 踊場の設置例



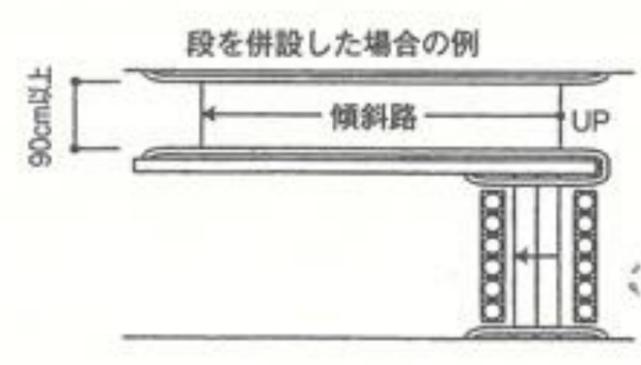
旧

《 参考図 》

【図3.1】 傾斜路の仕様

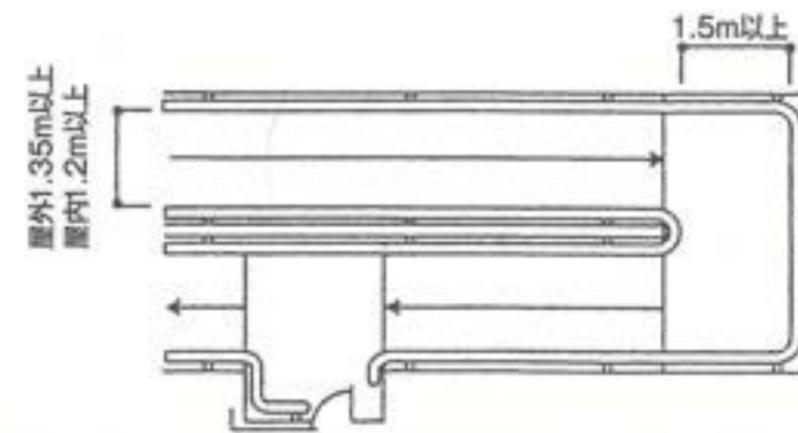


【図3.2】 傾斜路の幅員



【図3.3】 踊場の設置例

通路全幅が傾斜路の場合



〔廊下〕

〔廊下〕

廊下（屋内通路）は、次に定める構造とすること。

廊下（屋内通路）は、次に定める構造とすること。

- (1) 有効幅は、1.4m以上とすること。ただし、構造上やむを得ない場合は、1.2m以上とすることができる。この場合、要所（最低限廊下の両端等）に車椅子が転回できるスペース（おおよそ1.7×1.4 m角以上）を確保すること。
- (2) 床面には、段差を設けないこと。ただし、別項の〔傾斜路〕に定める構造の傾斜路を設けている場合または機械式昇降装置を設置している場合は、この限りでない。
- (3) 床の表面は、滑りにくい仕上げとすること。
- (4) 必要に応じて手すりを設けること。→別項の〔手すり〕を参照
- (5) 原則として突出物を設けないこと。やむを得ず設ける場合は、視覚障害者の通行の支障とならないよう必要な措置を講ずること（高さ65cm以上の部分に突出物を設ける場合は、突き出しの部分を10cm以下とすること。）。
- (6) 廊下の照明は、できるだけむらなく明るくすること。

- (1) 有効幅は、1.4m以上とすること。ただし、構造上やむを得ない場合は、1.2m以上とすることができる。この場合、要所（最低限廊下の両端等）に車いすが転回できるスペース（有効幅1.4 m以上）を確保すること。
- (2) 床面には、段差を設けないこと。ただし、別項の〔傾斜路〕に定める構造の傾斜路を設けている場合または機械式昇降装置を設置している場合は、この限りでない。
- (3) 床の表面は、滑りにくい仕上げとすること。
- (4) 必要に応じて手すりを設けること。→別項の〔手すり〕を参照
- (5) 原則として突出物を設けないこと。やむを得ず設ける場合は、視覚障害者の通行の支障とならないよう必要な措置を講ずること（高さ65cm以上の部分に突出物を設ける場合は、突き出しの部分を10cm以下とすること。）。
- (6) 廊下の照明は、できるだけむらなく明るくすること。

《 参考図 》

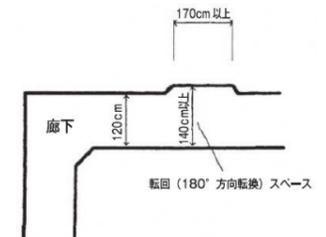
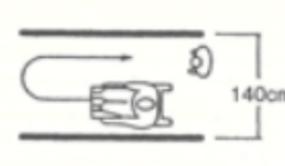
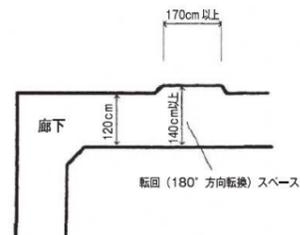
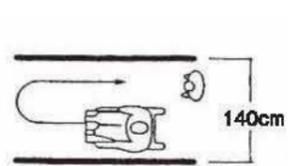
《 参考図 》

【図4.1】幅140cm:車椅子が180° 方向転換できる寸法

【図4.2】転回（180° 方向転換）スペースを設けた例

【図4.1】幅140cm:車いすが転回（180° 方向転換）できる寸法

【図4.2】転回（180° 方向転換）スペースを設けた例

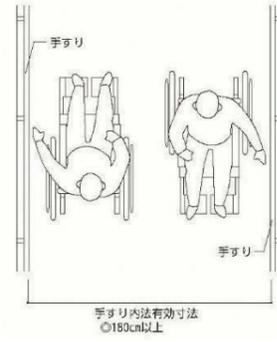


新

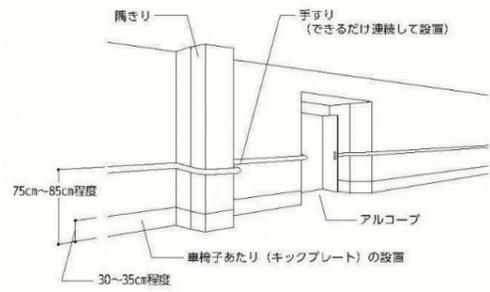
《 参考図 》

【図4.3】 車椅子使用者同士がすれ違える寸法

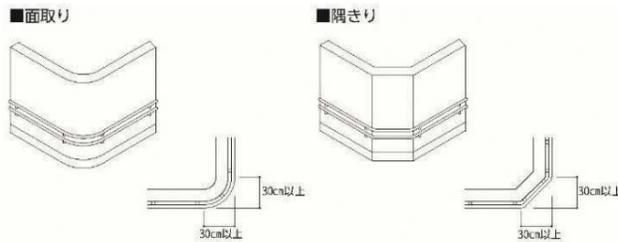
(車椅子使用者と杖使用者がすれ違える寸法)



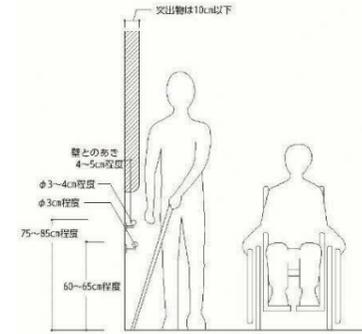
【図4.5】 廊下に柱型等が出ている場合の手すり設置例



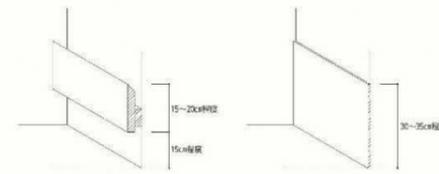
【図4.7】 廊下の角の例



【図4.4】 壁面の配置例



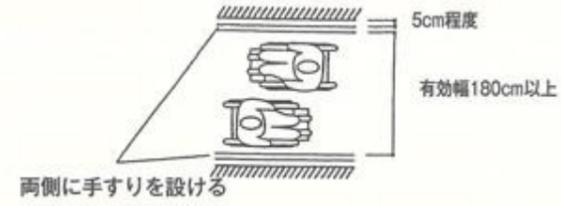
【図4.6】 車椅子あたりキックプレートの設置例



旧

《 参考図 》

【図4.3】 車いす同士の行き違いを配慮した廊下の例



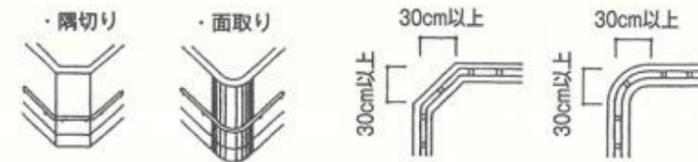
【図4.4】 視覚障害者に危険な突出物

【図4.5】 手すりの整備例

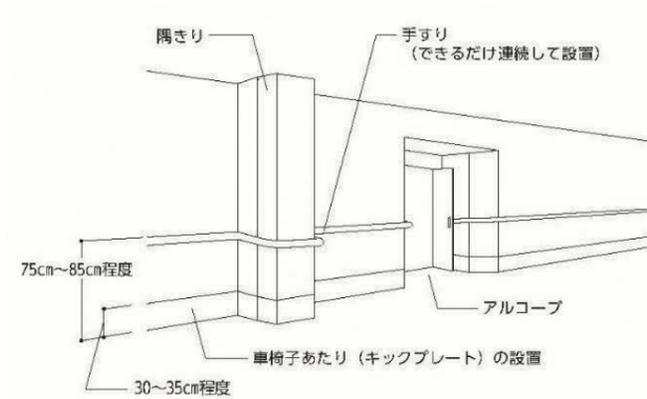
【図4.6】 キックプレートの設置例



【図4.7】 廊下の角の例



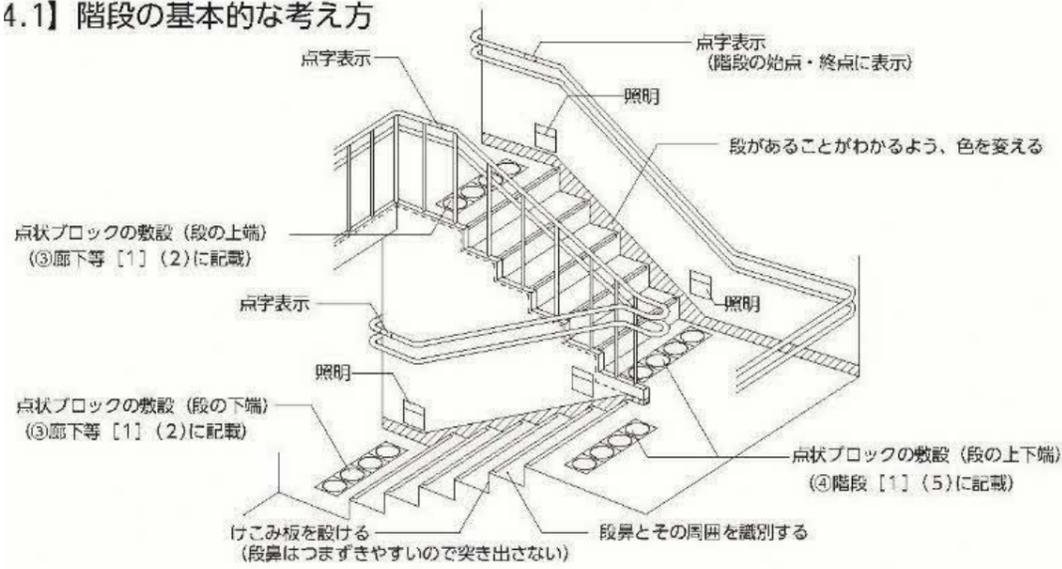
【図4.8】 廊下の整備例



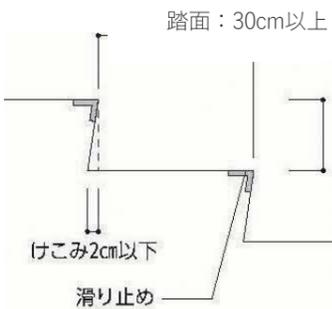
| 新 | 旧 |
|---|--|
| <p data-bbox="201 195 299 233">〔階段〕</p> <p data-bbox="184 327 590 359">階段は、次に定める構造とすること。</p> <p data-bbox="184 449 1308 480">(1) 主要な階段には、回り段を設けないこと。ただし、構造上やむを得ない場合は、この限りでない。</p> <p data-bbox="184 569 961 600">(2) け込み板は、杖や足の落ち込みを防止するために必ず設けること。</p> <p data-bbox="184 688 1418 762">(3) 手すり子形式の階段（壁面に接していない側面端部）には、両側に2 cm以上の立上りを設け、杖等の踏み外しを防止すること。</p> <p data-bbox="184 850 1418 924">(4) 手すりは、階段の両側に連続して設けること。ただし、構造上困難な場合には、少なくとも片側に設けること。 →別項の〔手すり〕を参照</p> <p data-bbox="184 1012 715 1043">(5) 床の表面は、滑りにくい仕上げとすること。</p> <p data-bbox="184 1131 1397 1205">(6) 踏面の色と段鼻（すべり止め）の色を対比させることにより、視覚障害者等が識別しやすいものとし、かつ、つまずきにくい構造とすること。</p> <p data-bbox="184 1293 1086 1325">(7) <u>階段の上下端に近接する部分には</u>、点状ブロック（警告用）を敷設すること。</p> <p data-bbox="184 1524 1231 1556">(8) 階段下が、視覚障害者等に危険な空間とならないよう、安全に配慮した措置を講じること。</p> | <p data-bbox="1564 195 1662 233">〔階段〕</p> <p data-bbox="1546 327 1952 359">階段は、次に定める構造とすること。</p> <p data-bbox="1546 449 2671 480">(1) 主要な階段には、回り段を設けないこと。ただし、構造上やむを得ない場合は、この限りでない。</p> <p data-bbox="1546 569 2323 600">(2) け込み板は、杖や足の落ち込みを防止するために必ず設けること。</p> <p data-bbox="1546 688 2781 762">(3) 手すり子形式の階段（壁面に接していない側面端部）には、両側に2 cm以上の立上りを設け、杖等の踏み外しを防止すること。</p> <p data-bbox="1546 850 2781 924">(4) 手すりは、階段の両側に連続して設けること。ただし、構造上困難な場合には、少なくとも片側に設けること。 →別項の〔手すり〕を参照</p> <p data-bbox="1546 1012 2077 1043">(5) 床の表面は、滑りにくい仕上げとすること。</p> <p data-bbox="1546 1131 2760 1205">(6) 踏面の色と段鼻（すべり止め）の色を対比させることにより、視覚障害者等が識別しやすいものとし、かつ、つまずきにくい構造とすること。</p> <p data-bbox="1546 1293 2781 1430">(7) <u>昇り口、降り口の床には</u>、点状ブロック（警告用）を敷設すること。<u>ただし、点状ブロック（警告用）の敷設が利用上特に支障をきたす場合には、仕上げの色を変えるなどの代替措置により、段を識別しやすくすること。</u></p> <p data-bbox="1546 1524 2594 1556">(8) 階段下が、視覚障害者等に危険な空間とならないよう、安全に配慮した措置を講じること。</p> |

【図5.1】 階段の基本的な考え方

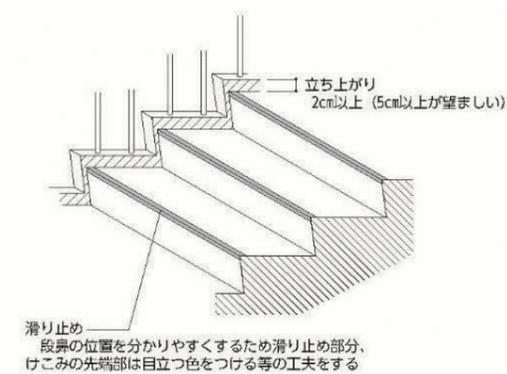
4.1] 階段の基本的な考え方



【図5.2】 踏面端部の例



【図5.4】 踏面端部の例



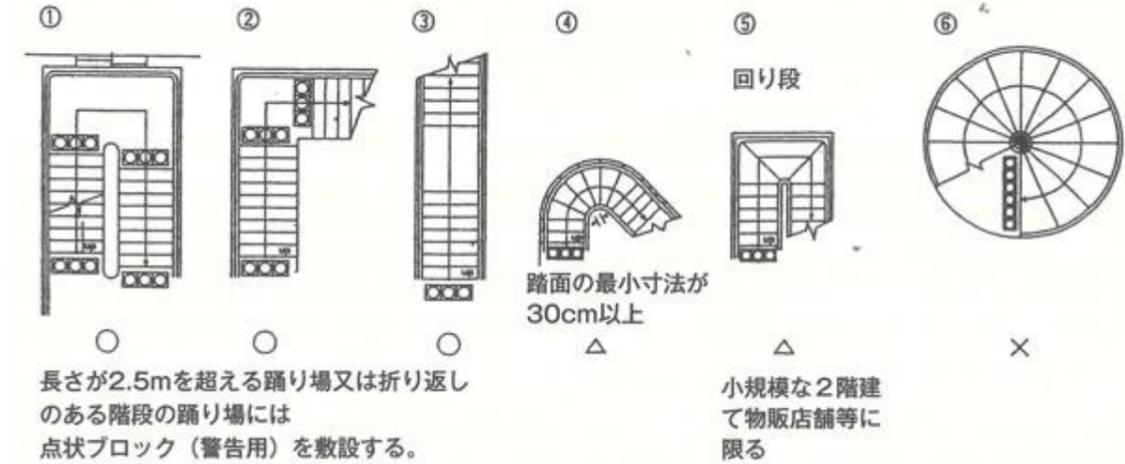
【図5.3】 けあげ、踏面の形状

(つまずきにくい構造の例)



【図5.1】 階段の形状

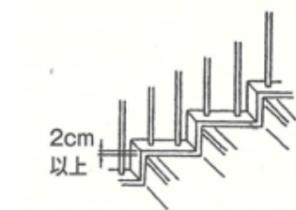
目次



【図5.2】 仕上げ、踏面の形状 (つまずきにくい構造の例)

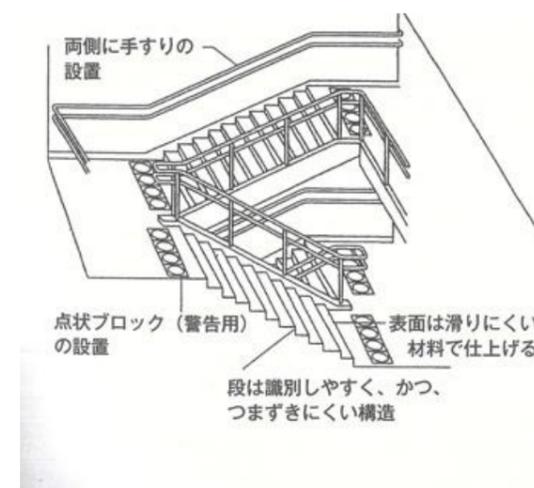


【図5.3】 階段端の立上り

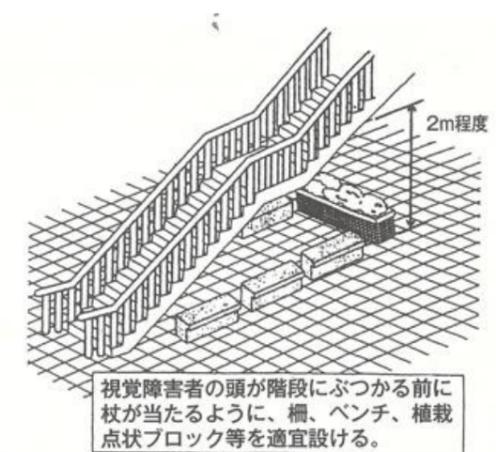


【図5.4】 階段の整備例

階段下の安全確保の措置の例



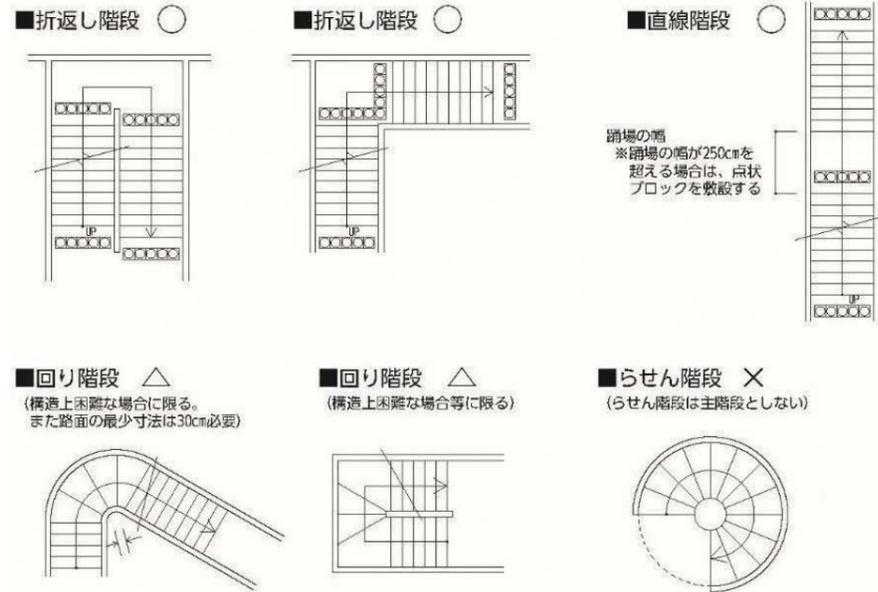
【図5.5】 視覚障害者の頭が階段にぶつかる前に杖が当たるように、柵、ベンチ、植栽点状ブロック等を適宜設ける。



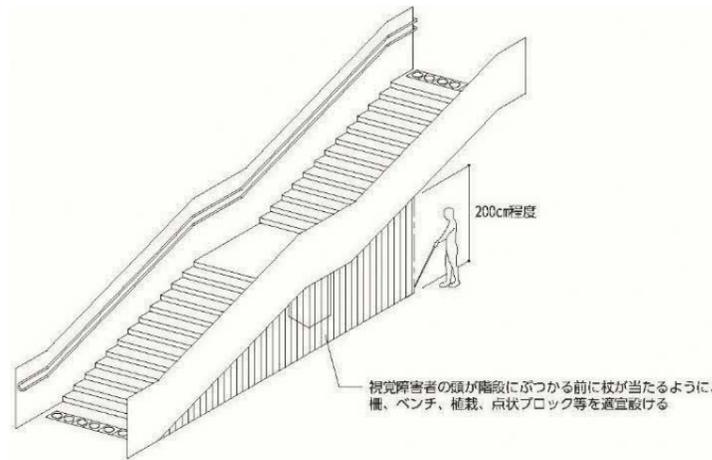
新

〈 参考図 〉

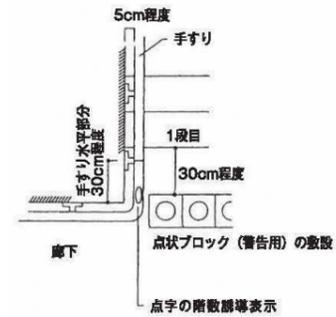
【図5.5】 階段の形状



【図5.6】 視覚障害者に対する階段下の安全確保の措置の例



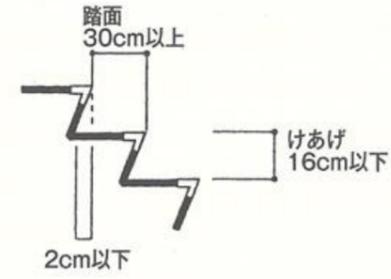
【図5.7】



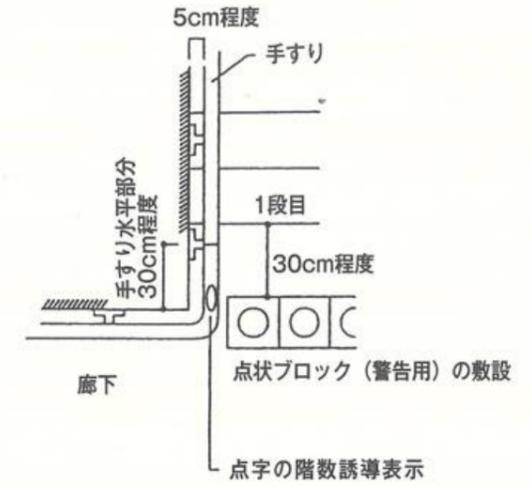
旧

〈 参考図 〉

【図5.6】



【図5.7】

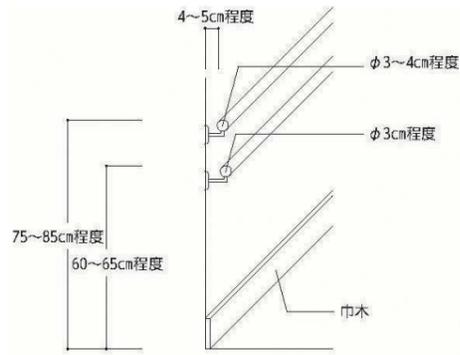


| 新 | 旧 |
|---|---|
| <p data-bbox="201 195 332 233">〔手すり〕</p> <p data-bbox="184 327 614 359">手すりは、次に定める構造とすること。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li data-bbox="184 510 1421 583">(1) 取り付け高さは、1段の場合は75 cm～85 cm程度、2段の場合は60 cm～65 cm程度および75 cm～85 cm程度とし、誘導を考慮して連続して設けること。 <li data-bbox="184 674 1231 705">(2) 移乗等動作補助用手すり（便所など）は、動作に応じて水平・垂直型のものを設けること。 <li data-bbox="184 795 798 827">(3) 外径3～4 cm程度の円形または楕円形とすること。 <li data-bbox="184 917 967 949">(4) 壁とのあきは、<u>4～5</u> cm程度とし、手すりの下側で支持すること。 <li data-bbox="184 1039 1377 1071">(5) 手すりが取り付く壁の部分は、握りそこなって手が落ち込んだ場合を考慮して滑らかな仕上げとすること。 <li data-bbox="184 1161 715 1192">(6) 端部は、下方または壁面方向に曲げること。 <li data-bbox="184 1283 1012 1314">(7) 手ざわり、耐久性、耐食性など、取付箇所に見合ったものとすること。 <li data-bbox="184 1404 1083 1436">(8) 階段、傾斜路等の手すりは、体重をかけたときに滑りにくいものとすること。 <li data-bbox="184 1526 667 1558">(9) 壁等周囲と識別しやすい色とすること。 | <p data-bbox="1564 195 1694 233">〔手すり〕</p> <p data-bbox="1546 327 1976 359">手すりは、次に定める構造とすること。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li data-bbox="1546 510 2783 583">(1) 取り付け高さは、1段の場合は75 cm～85 cm程度、2段の場合は60 cm～65 cm程度および75 cm～85 cm程度とし、誘導を考慮して連続して設けること。 <li data-bbox="1546 674 2594 705">(2) 移乗等動作補助用手すり（便所など）は、動作に応じて水平・垂直型のものを設けること。 <li data-bbox="1546 795 2160 827">(3) 外径3～4 cm程度の円形または楕円形とすること。 <li data-bbox="1546 917 2282 949">(4) 壁とのあきは、5 cm程度とし、手すりの下側で支持すること。 <li data-bbox="1546 1039 2739 1071">(5) 手すりが取り付く壁の部分は、握りそこなって手が落ち込んだ場合を考慮して滑らかな仕上げとすること。 <li data-bbox="1546 1161 2077 1192">(6) 端部は、下方または壁面方向に曲げること。 <li data-bbox="1546 1283 2374 1314">(7) 手ざわり、耐久性、耐食性など、取付箇所に見合ったものとすること。 <li data-bbox="1546 1404 2448 1436">(8) 階段、傾斜路等の手すりは、体重をかけたときに滑りにくいものとすること。 <li data-bbox="1546 1526 2027 1558">(9) 壁等周囲と識別しやすい色とすること。 |

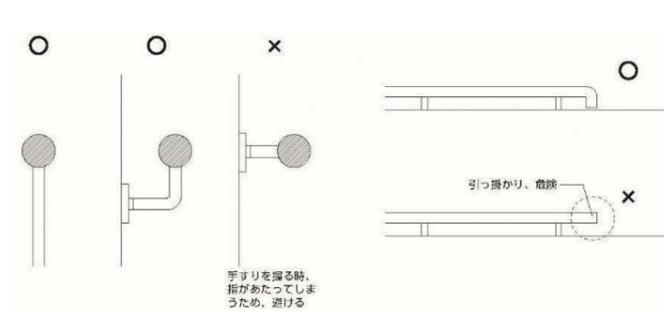
新

《 参考図 》

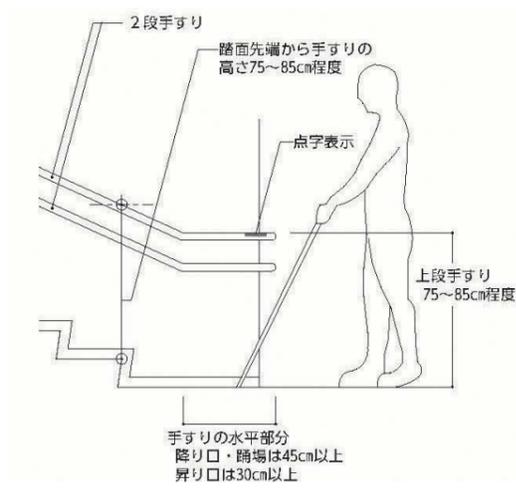
【図6.1】壁面の設置例



【図6.2】手すりの形状



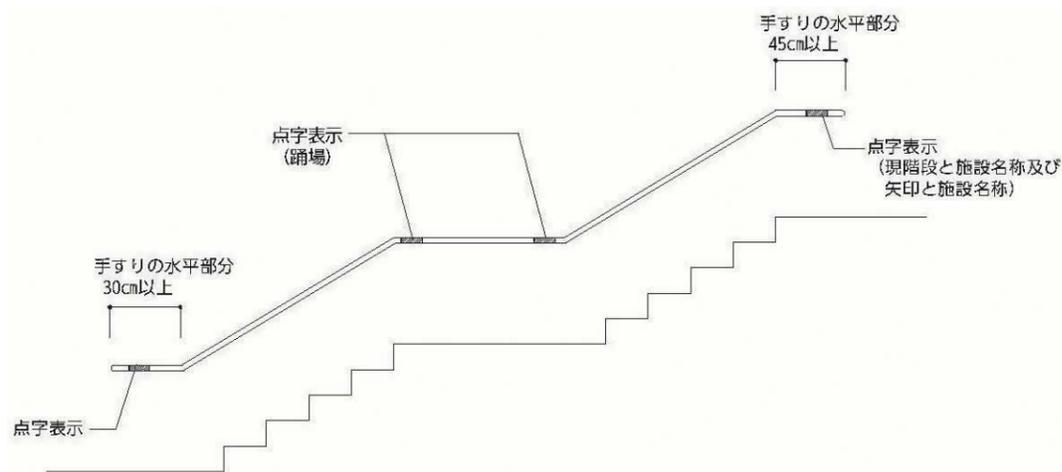
【図6.3】階段の手すりの例



【図6.4】傾斜路の手すりの例



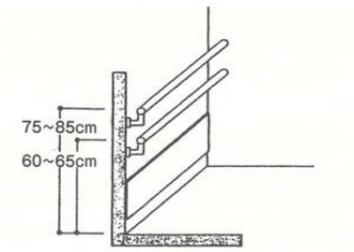
【図6.5】階段手すりと点字表示取付例



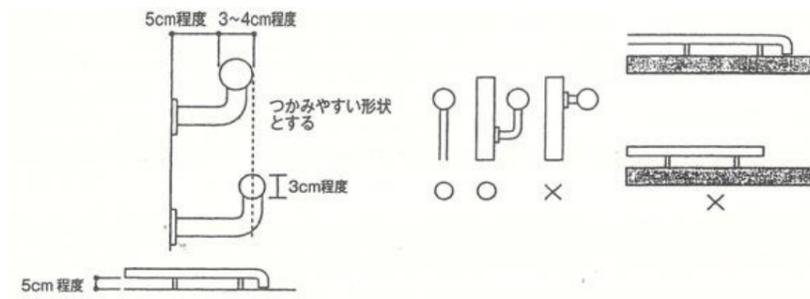
旧

《 参考図 》

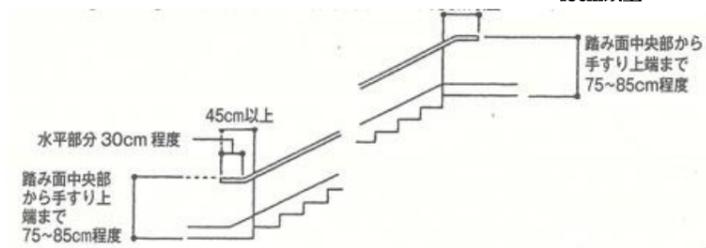
【図6.1】手すりの設置例



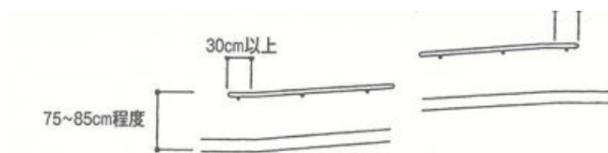
【図6.2】手すりの形状



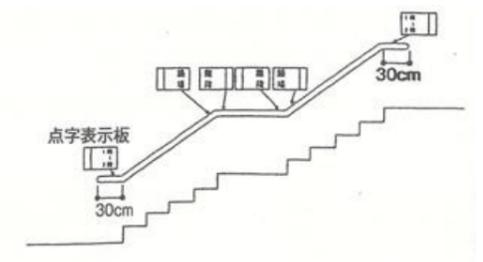
【図6.3】階段手すりの設置例



【図6.4】傾斜路手すりの設置例



【図6.5】階段手すりと点字表示取付例



| 新 | 旧 |
|---|--|
| <p>〔便所〕 <u>（車椅子利用者用便房）</u></p> <p>不特定かつ多数の者が利用する便所を設ける場合は、次に定める構造とすること。</p> <p>(1) 出入口</p> <p>だれでもトイレの出入口の有効幅は、85 cm以上とすること。</p> <p>(2) 便房の戸</p> <p>戸の構造は、(a)自動式引き戸、(b)手動式引き戸の順が望ましい。便房の戸を内開き戸とすることは、<u>車椅子</u>が入室した後のドア閉めが困難であり、かつ便房内で転倒した場合、体や<u>車椅子</u>が妨げとなって戸が開かず、救出しにくいので避けること。</p> <p>(3) 便房の大きさ</p> <p>① <u>車椅子</u>使用者が円滑に利用できる空間を確保すること。原則として、概ね内法200cmx 200 cm以上で、直径150cm以上の円程度が内接できるものとする。</p> <p>② <u>車椅子</u>から便座への移乗は、<u>車椅子</u>の側面（障害にもよるが一般的にこの方法が最も容易）または前方からなされるため、便器の前方および側面に<u>車椅子</u>を寄り付け、便器へ移乗するために必要なスペースを適切に設けるとともに、便器の両側には手すりを付けること。</p> <p>③ 衛生機器等は、直径150cmの円程度が内接できる空間を避け、<u>車椅子</u>使用者が利用しやすい位置に配置すること</p> <p>④ 内法 200cm x 200cm以上のスペースが確保できない場合には、次善の策として、<u>車椅子</u>の斜め前方からのアプローチを可能にするための大きさとして、内法で150cmx-<u>180</u>cm程度の便房を確保すること。</p> | <p>〔便所〕 <u>（だれでもトイレ）</u></p> <p>不特定かつ多数の者が利用する便所を設ける場合は、次に定める構造とすること。</p> <p>(1) 出入口</p> <p>① <u>だれでもトイレ</u>の出入口の有効幅は、85 cm以上とすること。<u>ただし、構造上やむを得ない場合は、80 cm以上とすることができる。</u></p> <p>② 出入口には、戸を設けない方が望ましい。戸を設ける場合は、当該戸は、<u>車いす車椅子</u>使用者が円滑に開閉して通過できる構造とすること。</p> <p>(2) 便房の戸</p> <p>戸の構造は、(a)自動式引き戸、(b)手動式引き戸の順が望ましい。便房の戸を内開き戸とすることは、<u>車いす</u>が入室した後のドア閉めが困難であり、かつ便房内で転倒した場合、体や<u>車いす</u>が妨げとなって戸が開かず、救出しにくいので避けること。</p> <p>(3) 便房の大きさ</p> <p>① <u>車いす</u>使用者が円滑に利用できる空間を確保すること。原則として、概ね内法200cmx 200 cm以上で、直径150cm以上の円程度が内接できるものとする。</p> <p>② <u>車いす</u>から便座への移乗は、<u>車いす</u>の側面（障害にもよるが一般的にこの方法が最も容易）または前方からなされるため、便器の前方および側面に<u>車いす</u>を寄り付け、便器へ移乗するために必要なスペースを適切に設けるとともに、便器の両側には手すりを付けること。</p> <p>③ 衛生機器等は、直径150cmの円程度が内接できる空間を避け、<u>車いす</u>使用者が利用しやすい位置に配置すること。</p> <p>④ 内法 200cm x 200cm以上のスペースが確保できない場合には、次善の策として、<u>車いす</u>の斜め前方からのアプローチを可能にするための大きさとして、内法で150cmx <u>200</u>cm程度の便房を確保すること。</p> |

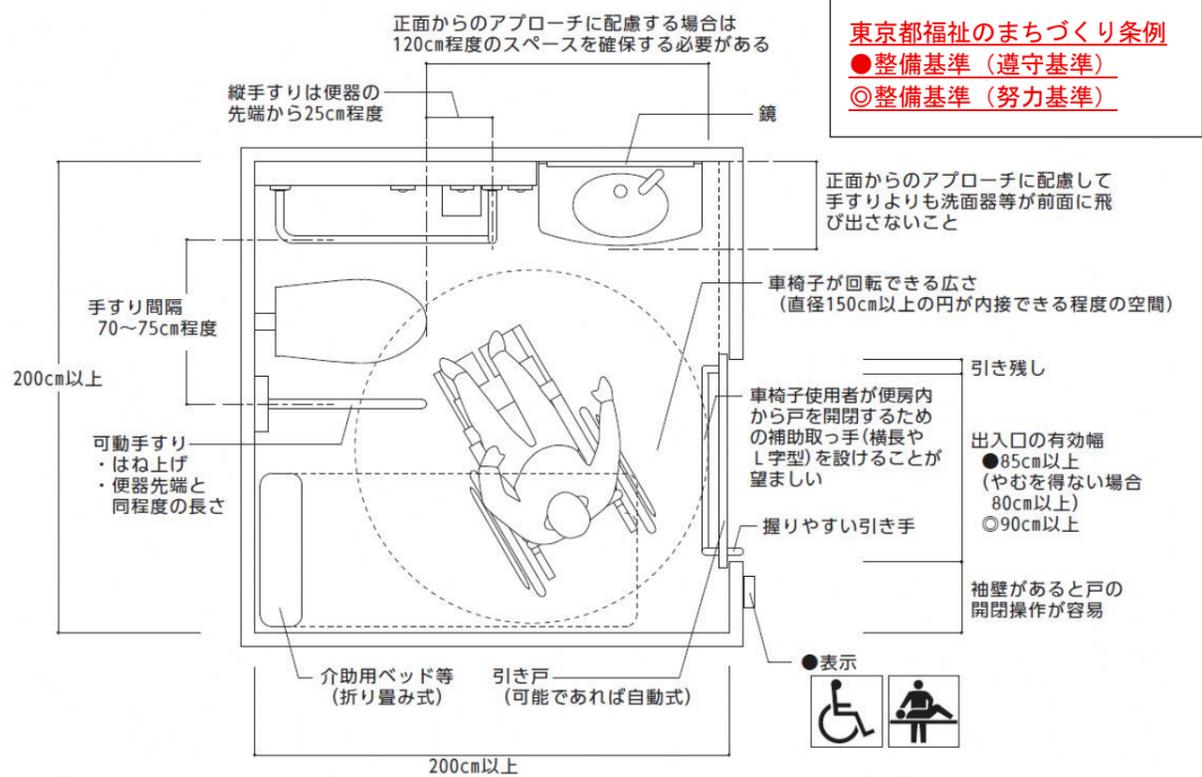
| 新 | 旧 |
|---|---|
| <p>(4) 便房内の設備</p> <p>① 腰掛け便座、手すり等を適切に配置すること。</p> <p>② 手すりは、便器の両側の利用しやすい位置に、垂直、水平に設けること。また、<u>車椅子</u>を便器と平行に寄り付けて介助する場合等に配慮し、150cmx<u>180</u>cm以上の大きさの便房においては、片方の手すりは可動式とすること。</p> <p>③ 洗面器は、便器の前方および側面に<u>車椅子</u>を寄り付け、便器に移乗するために必要なスペースを確保して設置すること。また、便房内に十分なスペースが確保されない場合には、小さめの洗面器または手洗器を設置することができる。洗面器の手すりは、スペースに余裕がある場合にのみ設置し、<u>車椅子</u>使用者の洗面器の利用にも配慮すること。</p> <p>④ 照明スイッチ、扉の開閉ボタン、扉の取っ手は、<u>車椅子</u>での利用を考慮し、操作しやすい位置に設けること。</p> <p>⑤ 洗浄装置、ペーパーホルダー、非常用呼び出しボタン (<u>JIS S 0026 に準ずる。</u>) その他は、便器に腰掛けのまま容易に利用できる位置に設け、分かりやすく、操作しやすい形状のものとする。また、<u>非常用の呼び出しボタンを設ける場合は、床に転倒した際にも手が届く位置にも設けるか、ひもで操作できるものとする。</u></p> <p>⑥ 使用中の表示は、施錠と連動させ、目につきやすい位置に設けること</p> <p>⑦ 手荷物棚またはフックを設置すること。<u>ただし、人がぶつからないように配慮すること。また、仮にあたっても怪我をしにくい丸みを帯びているものとする。</u></p> <p>⑧ <u>洗浄装置の基本はボタン式とする。また、自動洗浄式や感知式を設ける場合はボタン式を併設する。</u></p> | <p>(4) 便房内の設備</p> <p>① 腰掛け便座、手すり等を適切に配置すること。</p> <p>② 手すりは、便器の両側の利用しやすい位置に、垂直、水平に設けること。また、<u>車いす</u>を便器と平行に寄り付けて介助する場合等に配慮し、150cmx <u>200</u>cm以上の大きさの便房においては、片方の手すりは可動式とすること。</p> <p>③ <u>水平手すりの高さは、車いすのアームレストと同程度(65~70cm)とすること。</u></p> <p>④ 洗面器は、便器の前方および側面に<u>車いす</u>を寄り付け、便器に移乗するために必要なスペースを確保して設置すること。また、便房内に十分なスペースが確保されない場合には、小さめの洗面器または手洗器を設置することができる。洗面器の手すりは、スペースに余裕がある場合にのみ設置し、<u>車いす</u>使用者の洗面器の利用にも配慮すること。</p> <p>⑤ 照明スイッチ、扉の開閉ボタン、扉の取っ手は、<u>車いす</u>での利用を考慮し、操作しやすい位置に設けること。</p> <p>⑥ 洗浄装置、ペーパーホルダー、非常用呼び出しボタンその他は、便器に腰掛けたまま容易に利用できる位置に設け、分かりやすく、操作しやすい形状のものとする。</p> <p>⑦ 使用中の表示は、施錠と連動させ、目につきやすい位置に設けること。</p> <p>⑧ 手荷物棚またはフックを設置すること。</p> <p>⑨ <u>フラッシュバルブは、足踏式(車いす車椅子でも踏めるもの)、センサー式、くつべら式、ボタン式など操作が容易なものとする。</u></p> |

| 新 | 旧 |
|--|--|
| <p>(5) 床面には、高齢者、障害者等の通行の支障となる段差を設けないこと。</p> <p>(6) 床の表面は、<u>水洗いができ、かつ濡れた状態でも</u>滑りにくい仕上げとすること。</p> <p>(7) 分かりやすく利用しやすい位置に設けること。</p> <p><u>(8)ベビーチェア・ベビーベッドを整備</u>する場合は、次に定める構造とすること。</p> <p>① <u>ベビーチェアは、乳幼児を連れた者が、乳幼児を側に座らせて便所を利用することができるようにするために必要な便房内の設備である。</u></p> <p>② <u>ベビーチェアは、ベルト等により乳幼児を安全に座らせることができるものとする。</u></p> <p>③ <u>ベビーベッドには、転落防止のため固定ベルトを設ける。また、必要に応じて、転落の危険がある旨の表示をするなどの注意喚起をする。</u></p> <p>④ <u>車椅子利用者用便房内に設ける場合は、車椅子利用者の利用に十分配慮し、適切なスペースを確保した上で設置する必要がある。</u></p> | <p>(5) 床面には、高齢者、障害者等の通行の支障となる段差を設けないこと。</p> <p>(6) 床の表面は、滑りにくい仕上げとすること。</p> <p>(7) <u>一般の便所に近接し</u>、分かりやすく利用しやすい位置に設けること。</p> <p>(8) 入口付近には、車いす車椅子使用者、高齢者、妊婦、乳幼児を連れた者等だれもが利用できる旨を表示すること。</p> <p>(9) <u>子育て支援環境を整備（ベビーチェア・ベビーベッド）</u>する場合は、次に定める構造とすること。</p> <p>① <u>ベビーチェア等乳幼児を座らせることができる設備を設けること。</u></p> <p>② <u>ベビーベッド等乳幼児のおむつ替えができる設備を設けること。ただし、ほかにおむつ替えができる場所を設ける場合は、この限りでない。</u></p> |

新

《 参考図 》

【図7.1】 車椅子使用者便房の例（内法200cm×200cm以上の場合）



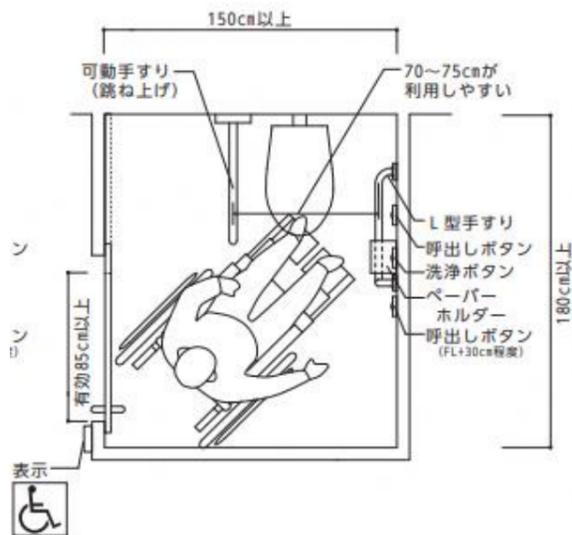
東京都福祉のまちづくり条例
 ●整備基準（遵守基準）
 ◎整備基準（努力基準）

※介助用ベッド：折り畳み式介助用ベッド等を設置する場合、畳み忘れであっても、車椅子での出入りが可能となるよう、車椅子に乗ったままでも畳める構造、位置とすることが望ましい。また、次使用する人のために折り畳みしてから退室するよう注意喚起を行う。

【図7.2】 内法 200cm x 200cm以上のスペースが確保できない場合の策

（簡易型車椅子使用者用便房の例）

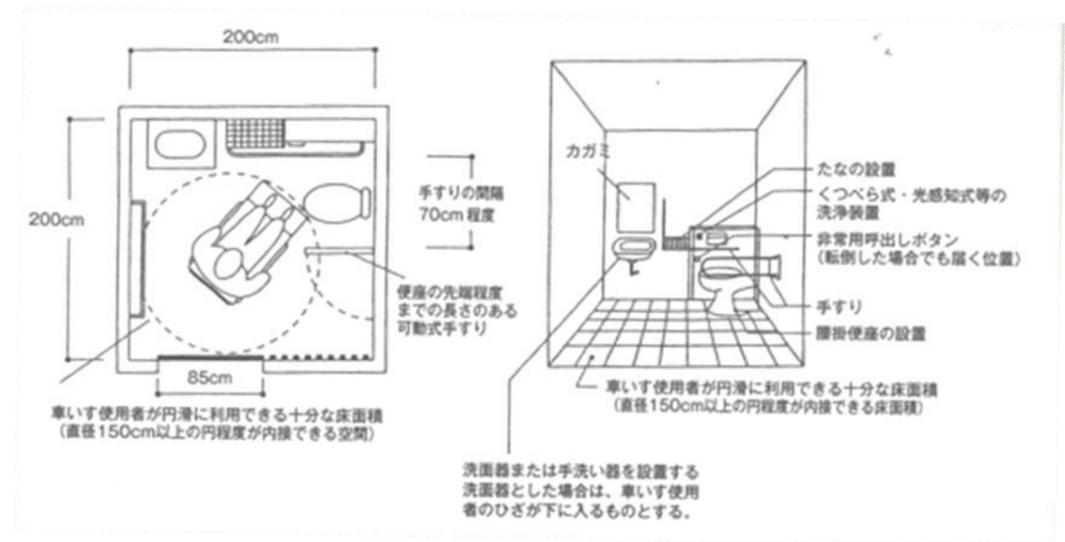
■側方進入の場合



旧

《 参考図 》

【図7.1】 便房内の各備品配列例（200cm×200cmの場合）



【図7.2】 手すり兼用の

【図7.3】 便房内の身づくり

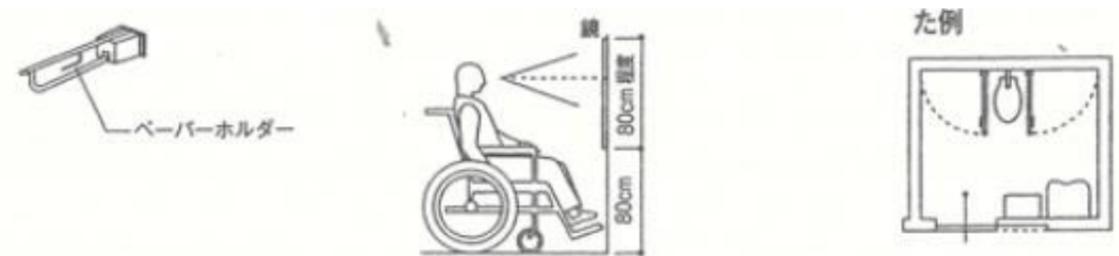
【図7.4】 左右どちら側からでも車いすが

ペーパーホルダーの例

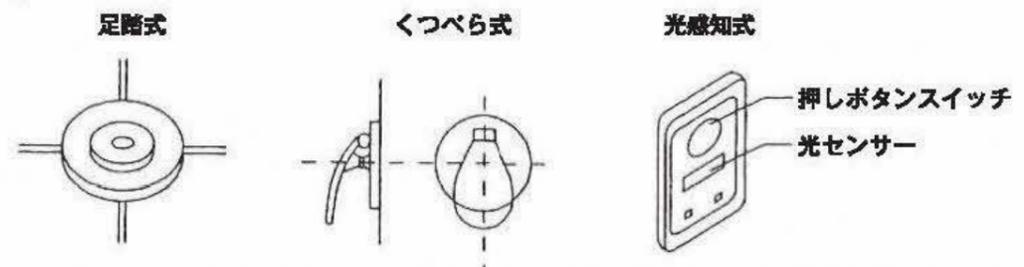
い用鏡の高さの例

アプローチできるよう配慮された

例



【図7.5】 フラッシュバルブの例



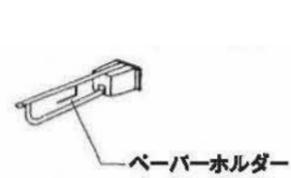
【図7.6】 案内表示の例



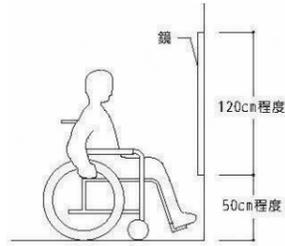
高齢者や妊産婦、乳幼児を連れてきた人など障害者以外の人も利用できる旨を表示する。

新

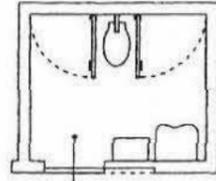
【図7.3】 手すり兼用のペーパーホルダーの例



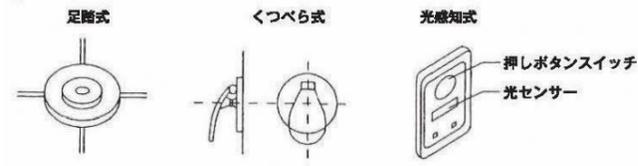
【図7.4】 便房内の身づくろい用鏡の高さの例



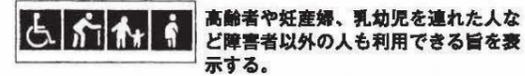
【図7.5】 左右どちら側からでも車椅子がアプローチできるよう配慮された例



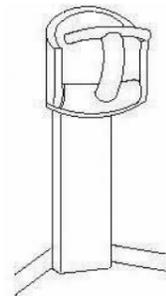
【図7.6】 フラッシュバルブの例



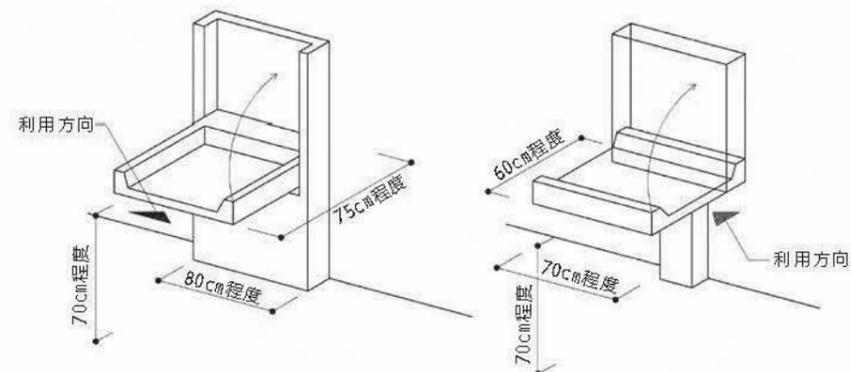
【図7.7】 案内表示の例



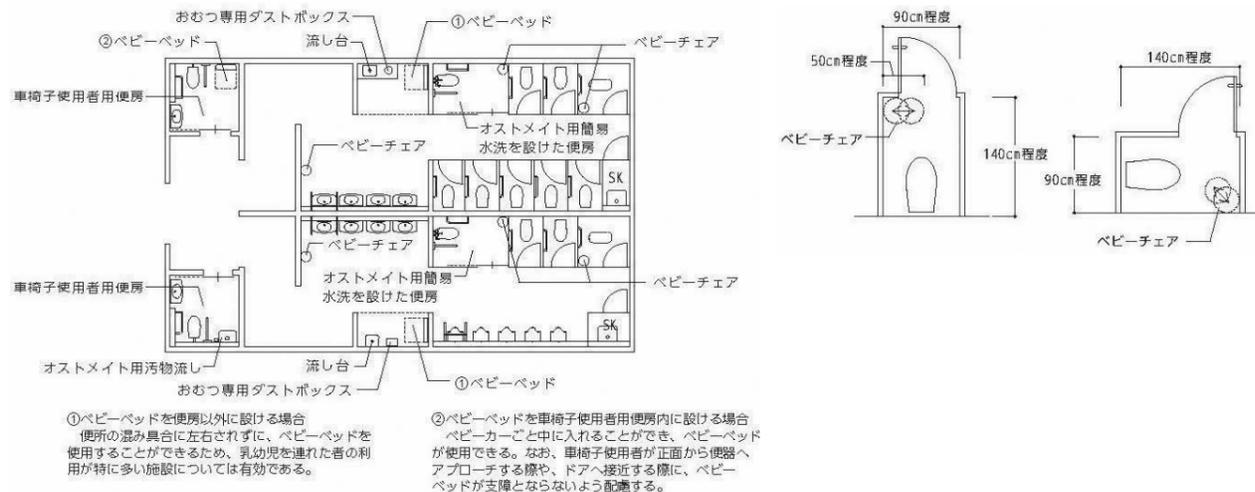
【図7.8】 ベビーチェアの例



【図7.9】 ベビーベッドの例



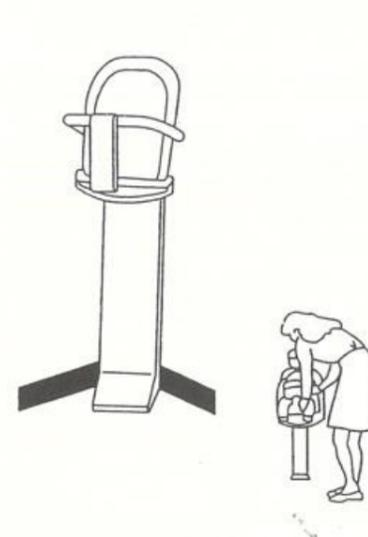
【図7.10】 ベビーチェア・ベビーベッドのレイアウト例



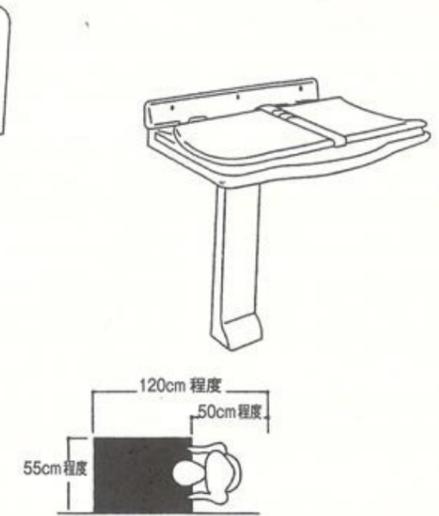
旧

《 参考図 》

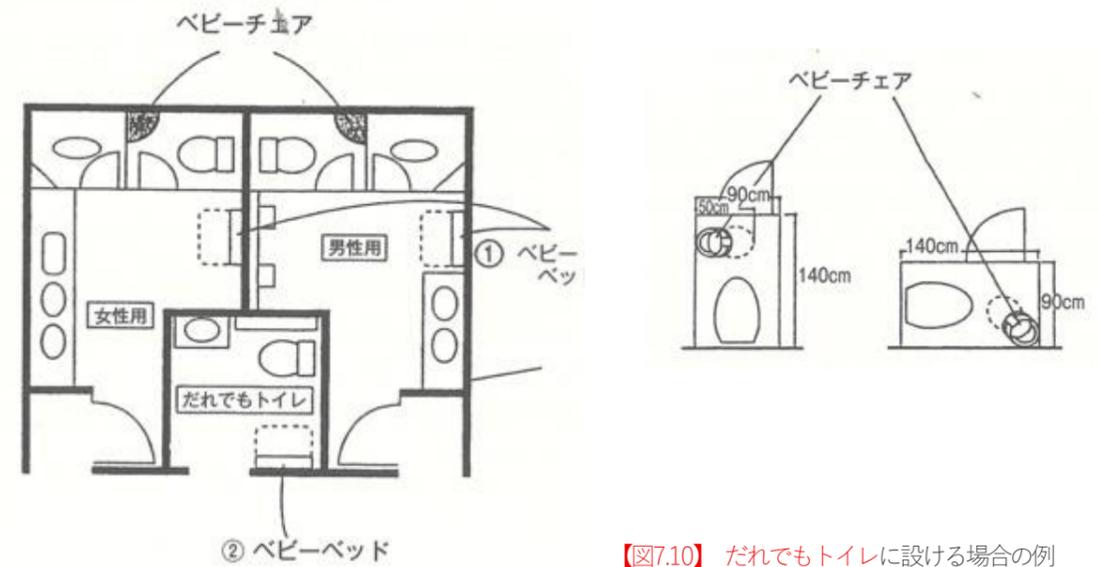
【図7.7】 ベビーチェアの例



【図7.8】 ベビーベッドの例

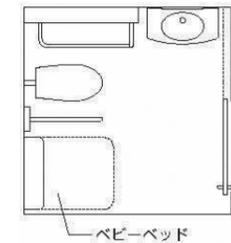


【図7.9】 ベビーチェア・ベビーベッドのレイアウト例



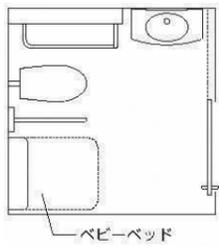
【図7.10】 だれでもトイレに設ける場合の例

- ① ベビーベッドを便所外に設ける場合
便所の混み具合に左右されずに、ベビーベッドを使用することができるため、乳幼児を連れてきた者の利用が多いため有効である。
- ② ベビーベッドを便所（だれでもトイレ）内に設けた例
ベビーチェアごとに入ることができ、またベビーチェアに座らせることのできない乳幼児を連れてきた者の利用に有効である。

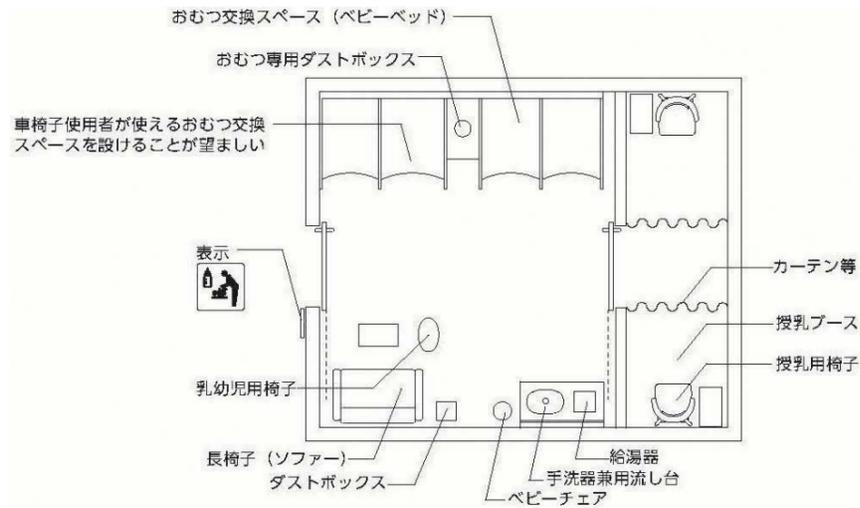


新

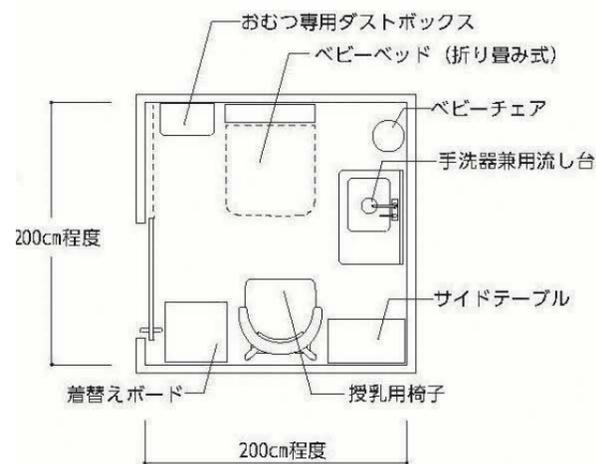
【図7.11】 車椅子使用者用便房に設ける場合の例



【図7.12】 授乳及びおむつ替えの場所の例 (複数利用の場合)



【図7.13】 授乳及びおむつ替えの場所の例 (独立した部屋の個人利用の場合)

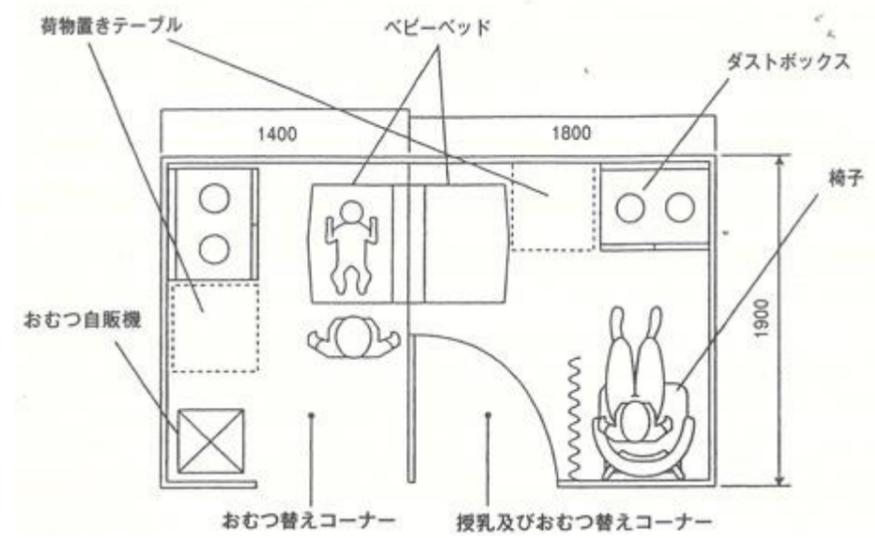


【図7.14】 案内表示の例

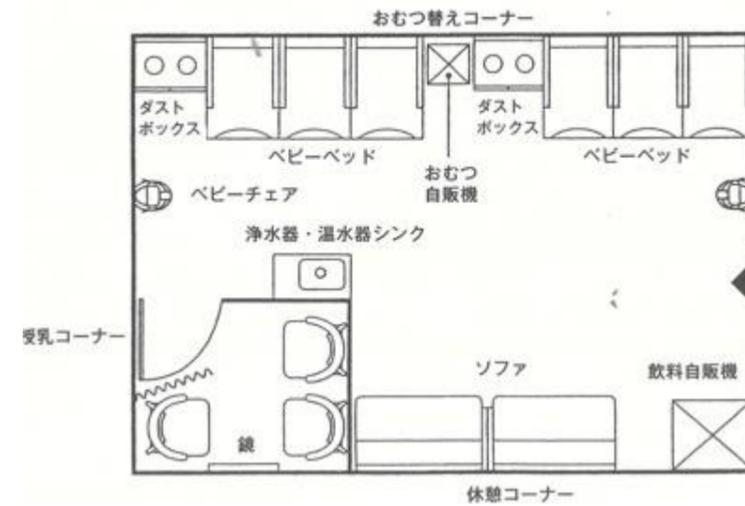


旧

【図7.11】 授乳及びおむつ替えの場所の例 (独立した部屋が設けられない場合)



【図7.12】 授乳及びおむつ替えの場所の例 (独立した部屋の場合)



【図7.13】 案内表示の例

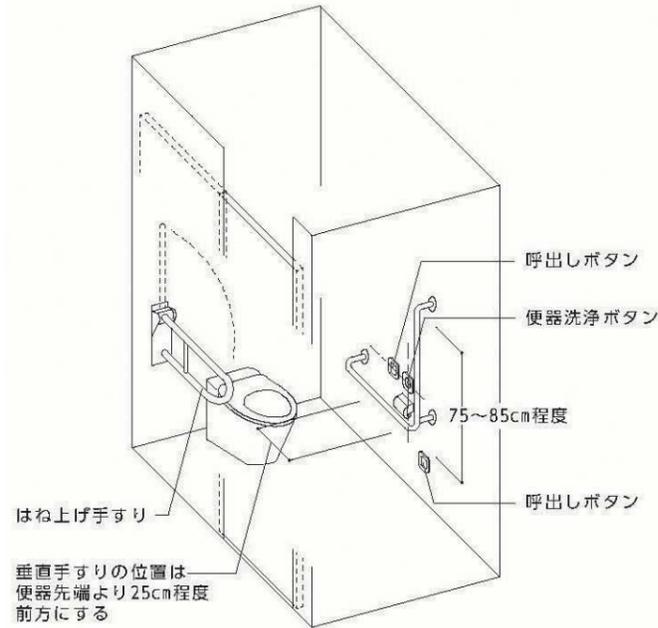


| 新 | 旧 |
|--|--|
| <p data-bbox="201 195 448 233">〔便所〕（一般用）</p> <p data-bbox="184 327 1421 401">不特定かつ多数の者が利用する便所を設ける場合は、1以上（男子用および女子用の区別があるときは、それぞれ1以上）を次に定める構造とすること。</p> <p data-bbox="184 491 1012 520">(1) 床面には、高齢者、障害者等の通行の支障となる段差を設けないこと。</p> <p data-bbox="184 611 1110 640">(2) 床の表面は、<u>水洗いができ、かつ濡れた状態でも</u>滑りにくい仕上げとすること。</p> <p data-bbox="184 793 685 823">(3) 大便器は、1以上を腰掛け式とすること。</p> <p data-bbox="184 913 308 942">(4) 手すり</p> <p data-bbox="210 1033 1118 1062">① 腰掛け式とした大便器および小便器の1以上に、それぞれ手すりを設けること。</p> <p data-bbox="210 1152 1178 1182">② 手すりのつかみやすい位置は個人差があるので、できるだけ長いものを付けること。</p> <p data-bbox="210 1272 1418 1430">③ 小便器の手すりは、胸を支点にして寄りかかりながら用を足すためのものである。この場合は、腰を後ろに引くような姿勢となるので、できるだけ小便器に近づけて取り付けることとし、高さは120cm程度とすること。横の手すりは、つかまりながら用を足すためのものであり、間隔60cm程度、高さは<u>80～90</u>cm程度とすること。</p> <p data-bbox="184 1520 1412 1593">(5) 男子用小便器を設ける場合は、小児等の利用に配慮し、1以上を床置きまたはリップの高さが35cm以下のものとすること。</p> <p data-bbox="184 1684 887 1713">(6) 男女別の表示、便所の位置等を分かりやすく表示すること。</p> | <p data-bbox="1564 195 1810 233">〔便所〕（一般用）</p> <p data-bbox="1546 327 2783 401">不特定かつ多数の者が利用する便所を設ける場合は、1以上（男子用および女子用の区別があるときは、それぞれ1以上）を次に定める構造とすること。</p> <p data-bbox="1546 491 2374 520">(1) 床面には、高齢者、障害者等の通行の支障となる段差を設けないこと。</p> <p data-bbox="1546 611 2077 640">(2) 床の表面は、滑りにくい仕上げとすること。</p> <p data-bbox="1546 793 2047 823">(3) 大便器は、1以上を腰掛け式とすること。</p> <p data-bbox="1546 913 1670 942">(4) 手すり</p> <p data-bbox="1573 1033 2481 1062">① 腰掛け式とした大便器および小便器の1以上に、それぞれ手すりを設けること。</p> <p data-bbox="1573 1152 2540 1182">② 手すりのつかみやすい位置は個人差があるので、できるだけ長いものを付けること。</p> <p data-bbox="1573 1272 2786 1430">③ 小便器の手すりは、胸を支点にして寄りかかりながら用を足すためのものである。この場合は、腰を後ろに引くような姿勢となるので、できるだけ小便器に近づけて取り付けることとし、高さは120cm程度とすること。横の手すりは、つかまりながら用を足すためのものであり、間隔60cm程度、高さは80cm程度とすること。</p> <p data-bbox="1546 1520 2786 1593">(5) 男子用小便器を設ける場合は、小児等の利用に配慮し、1以上を床置きまたはリップの高さが35cm以下のものとすること。</p> <p data-bbox="1546 1684 2249 1713">(6) 男女別の表示、便所の位置等を分かりやすく表示すること。</p> |

新

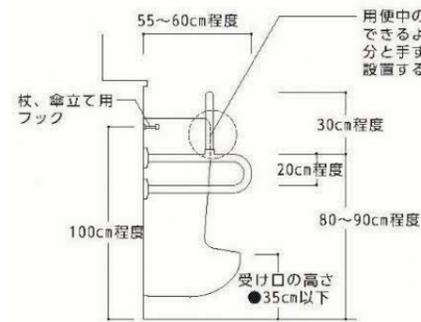
《 参考図 》

【図8.1】 大便器の手すりの例

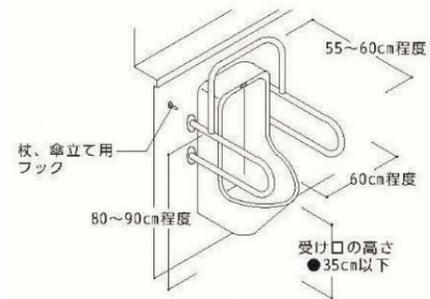
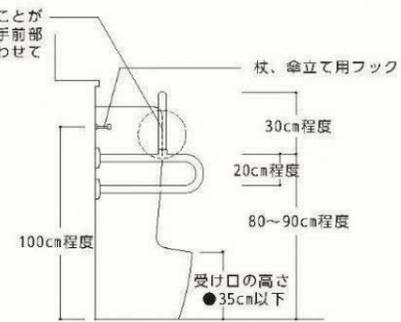


【図8.2】 小便器の手すりの例

■ 壁掛式低受け口



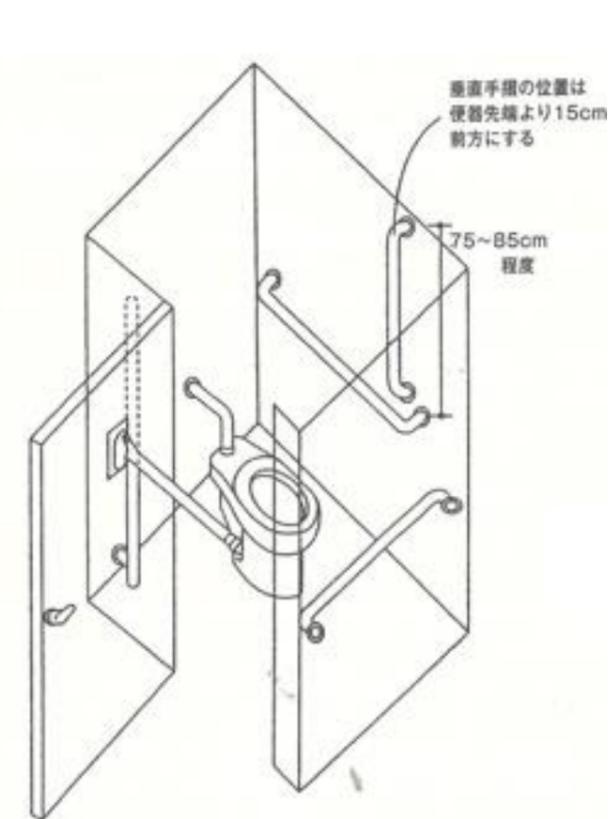
■ 床置き式ストール



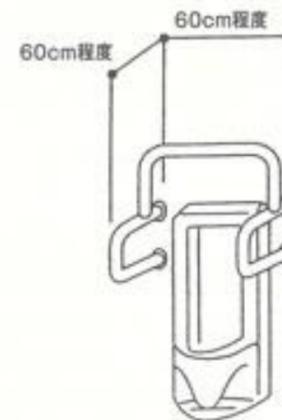
旧

《 参考図 》

【図8.1】 大便器の手すりの例

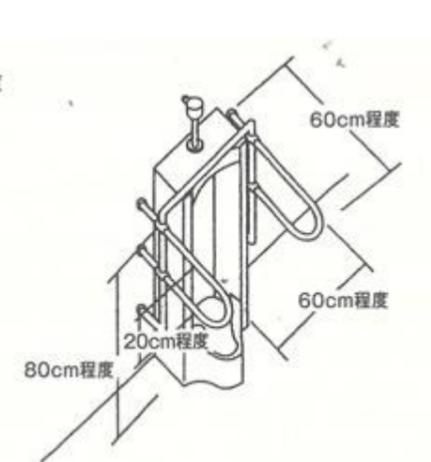


【図8.3】 床置き式小便器の例

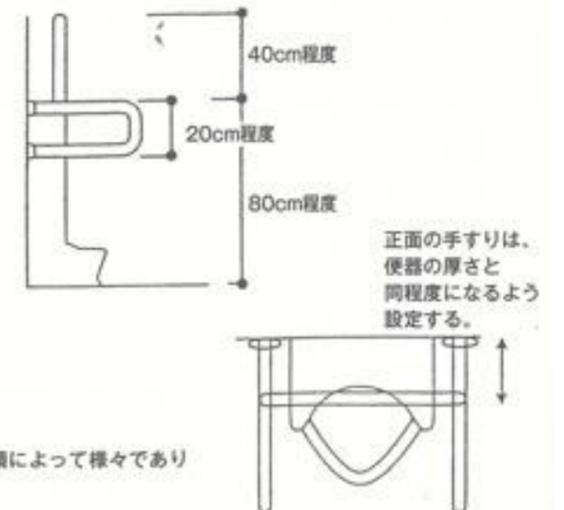
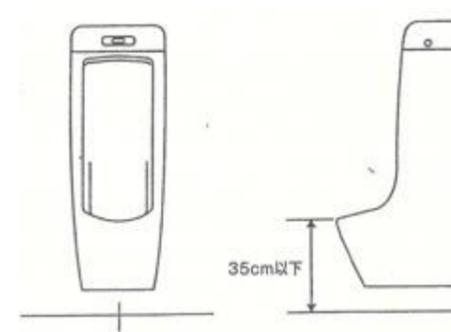


必要とされる手すりの位置・形状は障害者の程度や種類によって様々であり図に示す手摺は設置の一例である。

【図8.2】 小便器の手すりの例



【図8.4】 壁掛式小便器（低リップ式）の例

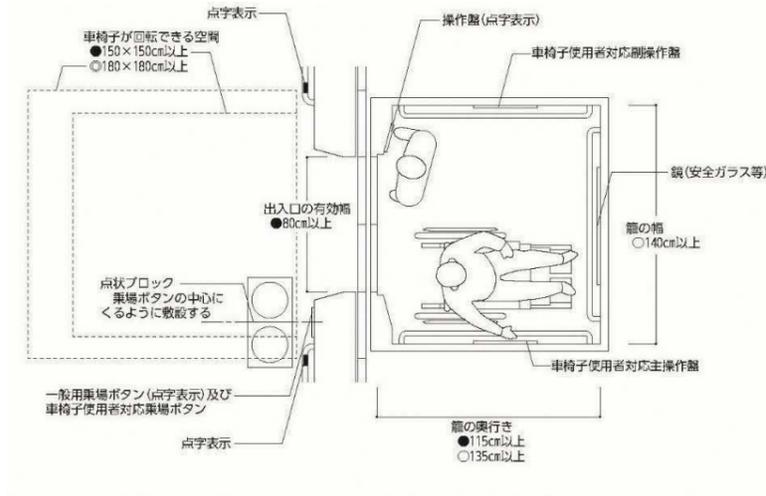


| 新 | 旧 |
|--|--|
| <p data-bbox="201 195 433 233">〔エレベーター〕</p> <p data-bbox="184 327 1151 359">エレベーターを設ける場合は、高齢者、障害者等が支障なく利用できる構造とすること。</p> <p data-bbox="184 510 1092 541">(1) エレベーター入口までの段差をなくし、入口の有効幅は80cm以上とすること。</p> <p data-bbox="184 688 1418 804">(2) <u>籠</u>内部で<u>車椅子</u>の向きを変える（直径150cm以上の円程度が内接できる空間）ことができない場合は、<u>籠</u>内背面盤に床上<u>40cmから150cm程度まである鏡（ステンレス製または安全ガラス製）</u>を設けること。ただし、平面鏡が設けられない構造のものにあつては、凸面鏡（合成樹脂製も含む）も可とする。</p> <p data-bbox="184 894 1080 926">(3) <u>車椅子</u>使用者が利用しやすい位置（床上100cm程度）に操作盤を設けること。</p> <p data-bbox="184 1077 1418 1150">(4) 手すりについては、かご内に設けることが望ましいが、設置位置については、<u>車椅子</u>の乗降の際に支障とならないよう、出入口の幅員の確保に十分配慮し設置すること。</p> | <p data-bbox="1558 195 1789 233">〔エレベーター〕</p> <p data-bbox="1540 327 2507 359">エレベーターを設ける場合は、高齢者、障害者等が支障なく利用できる構造とすること。</p> <p data-bbox="1540 510 2448 541">(1) エレベーター入口までの段差をなくし、入口の有効幅は80cm以上とすること。</p> <p data-bbox="1540 688 2775 804">(2) <u>かご</u>内部で<u>車いす</u>の向きを変える（直径150cm以上の円程度が内接できる空間）ことができない場合は、<u>かご</u>内背面盤に床上<u>ガラス製または金属製の平面鏡</u>を設けること。ただし、平面鏡が設けられない構造のものにあつては、凸面鏡（合成樹脂製も含む）も可とする。</p> <p data-bbox="1540 894 2436 926">(3) <u>車いす</u>使用者が利用しやすい位置（床上100cm程度）に操作盤を設けること。</p> <p data-bbox="1540 1077 2775 1150">(4) 手すりについては、かご内に設けることが望ましいが、設置位置については、<u>車いす</u>の乗降の際に支障とならないよう、出入口の幅員の確保に十分配慮し設置すること。</p> |

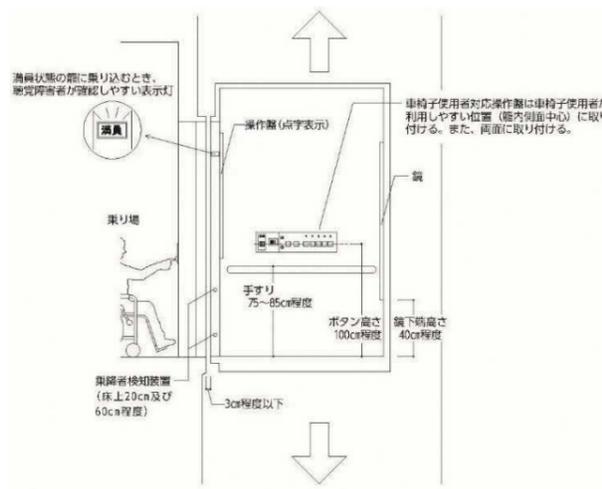
新

《 参考図 》

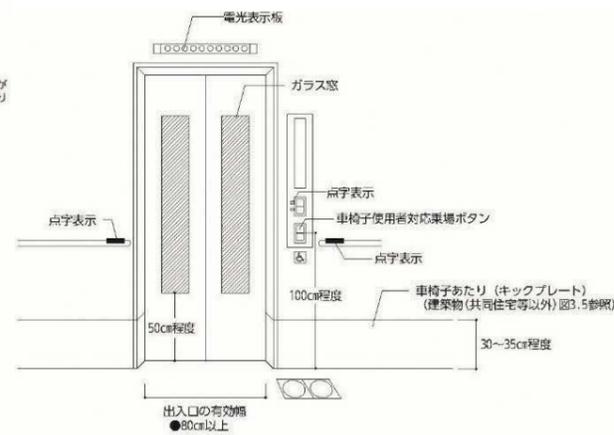
【図9.1】エレベーターの平面図



【図9.2】籠内の断面図



【図9.3】エレベーターの出入口(乗り場)



【図9.4】シンボルマーク及び利用銘板の例

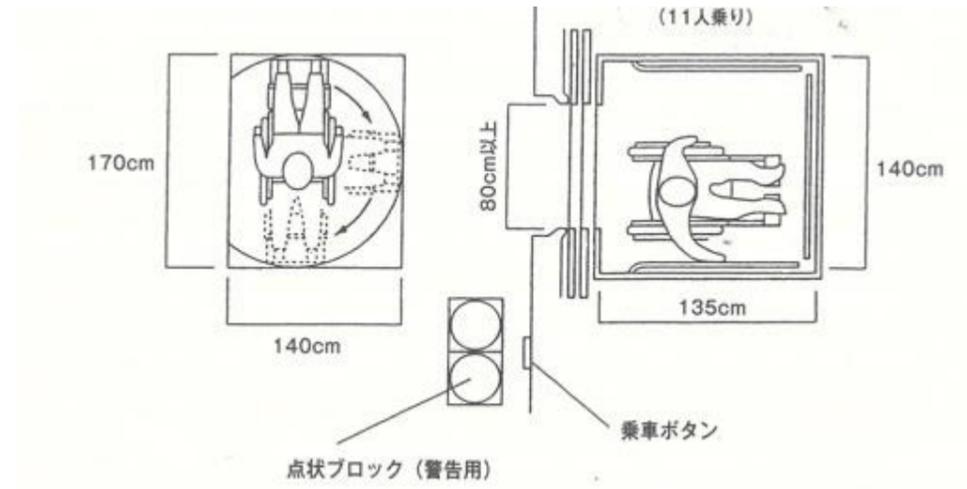


お 願 い
車いす使用の方はシンボルマーク付きの
操作ボタンをご利用ください。

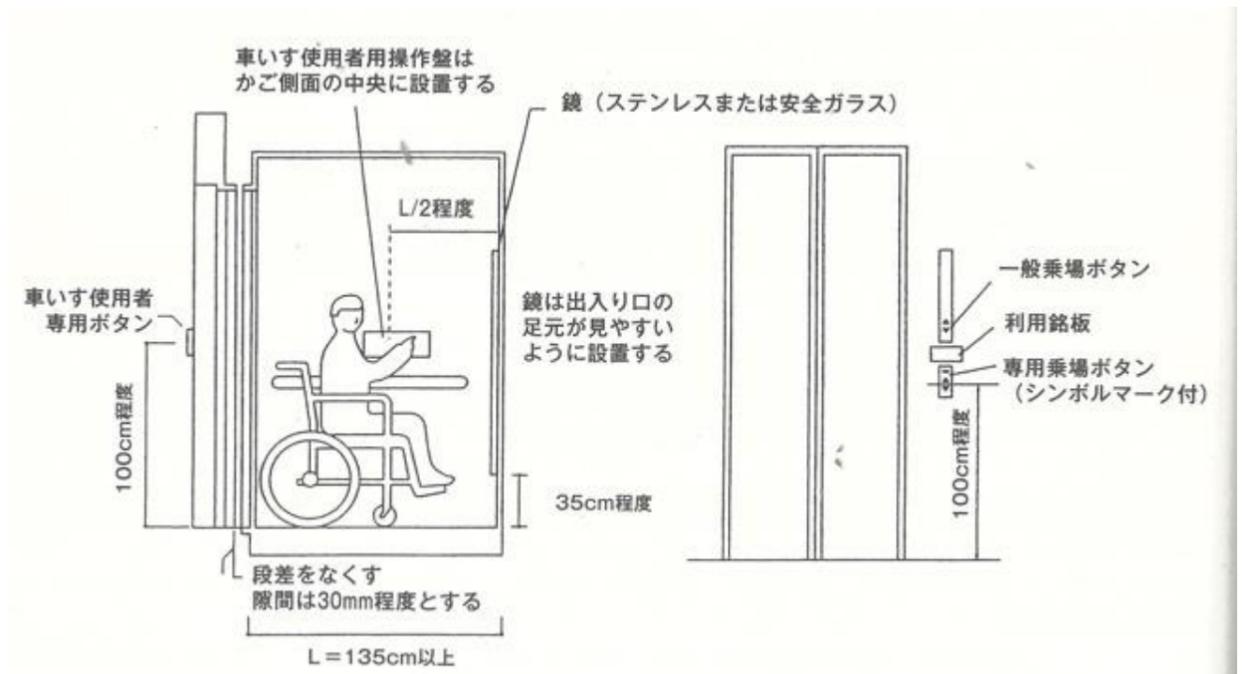
旧

《 参考図 》

【図9.1】エレベーターの設計標準(11人乗り)



【図9.2】エレベーターの利用例



【図9.3】シンボルマーク及び利用銘板の例



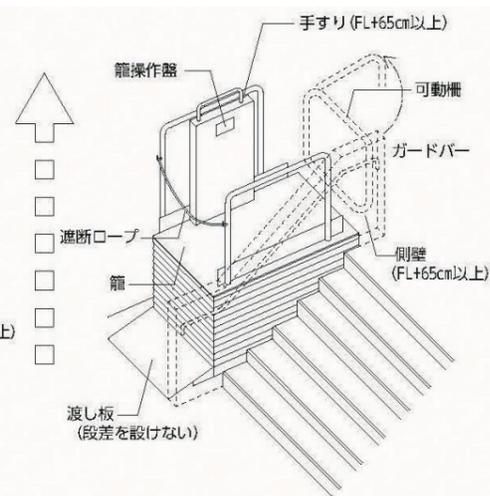
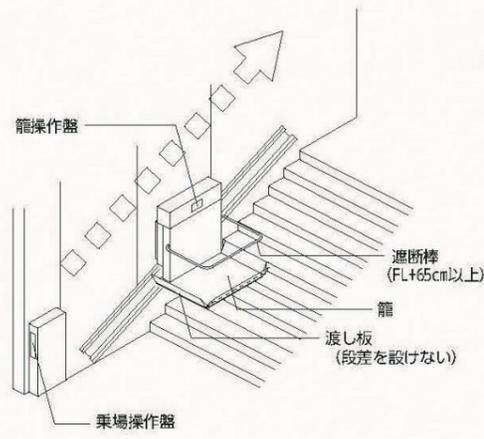
お 願 い
車いす使用の方はシンボルマーク付きの
操作ボタンをご利用ください。

| 新 | 旧 |
|---|--|
| <p data-bbox="201 195 463 233">〔エスカレーター〕</p> <p data-bbox="184 327 1409 401">エスカレーターを設置する場合は、次に定める構造とすること。ただし、別項〔エレベーター〕に定める構造のエレベーターを設けている場合は、この限りでない。</p> <p data-bbox="184 489 1077 520">(1) 800型（ステップ幅約60cm）または1200型（ステップ幅約100cm）が望ましい。</p> <p data-bbox="184 672 1228 703">(2) 乗降口には、長さ100cm程度の固定手すりを設け、点字標示を取り付けることが望ましい。</p> <p data-bbox="184 852 1018 884">(3) 乗り口・降り口ともに、くしから70cm程度の移動手すりを設けること。</p> <p data-bbox="184 1035 1207 1066">(4) ステップの水平部分は3枚程度、通常段差に達するまでのステップは5枚程度とすること。</p> <p data-bbox="184 1215 1409 1289">(5) くしは、できるだけ薄くし、色を変えるなどしてステップの部分とはっきり区別がつくようにすることが望ましい。</p> <p data-bbox="184 1377 641 1409">(6) 速度は、30m／分を標準とすること。</p> | <p data-bbox="1564 195 1825 233">〔エスカレーター〕</p> <p data-bbox="1546 344 2772 417">エスカレーターを設置する場合は、次に定める構造とすること。ただし、別項〔エレベーター〕に定める構造のエレベーターを設けている場合は、この限りでない。</p> <p data-bbox="1546 506 2439 537">(1) 800型（ステップ幅約60cm）または1200型（ステップ幅約100cm）が望ましい。</p> <p data-bbox="1546 688 2591 720">(2) 乗降口には、長さ100cm程度の固定手すりを設け、点字標示を取り付けることが望ましい。</p> <p data-bbox="1546 869 2380 900">(3) 乗り口・降り口ともに、くしから70cm程度の移動手すりを設けること。</p> <p data-bbox="1546 1052 2570 1083">(4) ステップの水平部分は3枚程度、通常段差に達するまでのステップは5枚程度とすること。</p> <p data-bbox="1546 1232 2772 1306">(5) くしは、できるだけ薄くし、色を変えるなどしてステップの部分とはっきり区別がつくようにすることが望ましい</p> <p data-bbox="1546 1394 2041 1425">(6) 速度は、30m／分を標準とすること。</p> |

【図10.2】 斜行型段差解消機

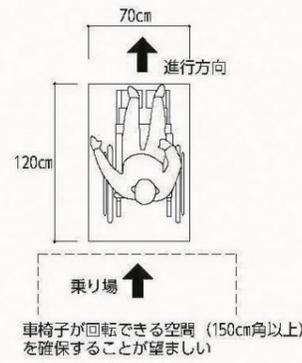
【図10.3】 垂直型段差解消機

※障害物検知装置を設置した場合
壁又は囲いは設けなくてよい

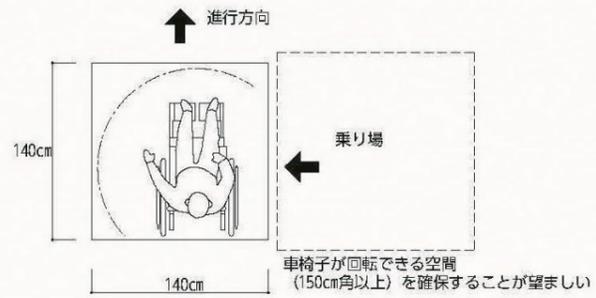


【図10.4】

■定員1名の籠（直線形式の場合）



■定員1名の籠（90度の転回形式の場合）

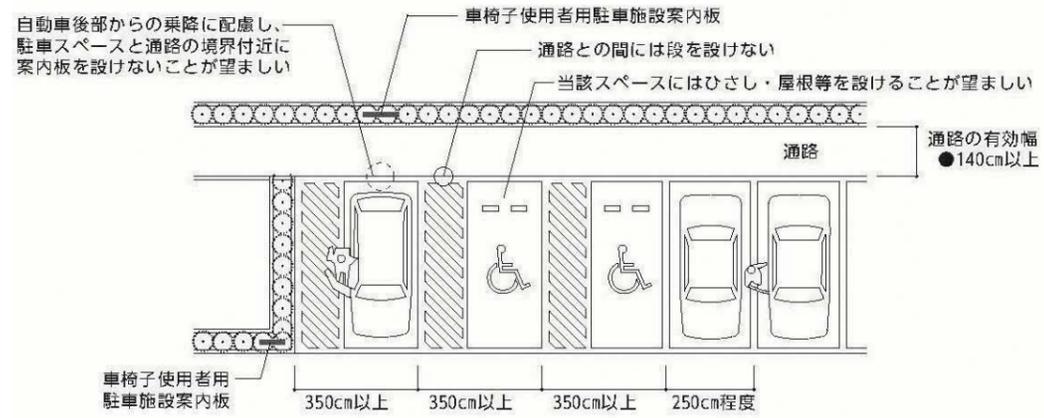


| 新 | 旧 |
|---|---|
| <p data-bbox="201 195 332 233">〔駐車場〕</p> <p data-bbox="201 327 1359 359">駐車場を設ける場合は、1以上の駐車施設を障害者のための駐車施設として、次に定める構造とすること。</p> <p data-bbox="181 449 730 480">(1) 幅は3.5m以上、奥行きは6m以上とすること。</p> <p data-bbox="181 630 1110 661">(2) 当該駐車施設から建築物までの経路が、できるだけ短くなる位置に設けること。</p> <p data-bbox="181 810 1418 884">(3) 当該駐車施設の床面には「国際シンボルマーク」を、乗降スペース床面には斜線をそれぞれ塗装表示すること。またはし、車止め付近に運転席からも判別できる大きさの標識を設けること。</p> <p data-bbox="181 974 1418 1047">(4) 当該駐車施設から建物の出入口までの通路は、有効幅を1.2m以上とすること。また段差を設けず、表面を滑りにくい仕上げとすること。</p> | <p data-bbox="1564 195 1694 233">〔駐車場〕</p> <p data-bbox="1564 327 2721 359">駐車場を設ける場合は、1以上の駐車施設を障害者のための駐車施設として、次に定める構造とすること。</p> <p data-bbox="1543 449 2092 480">(1) 幅は3.5m以上、奥行きは6m以上とすること。</p> <p data-bbox="1543 630 2472 661">(2) 当該駐車施設から建築物までの経路が、できるだけ短くなる位置に設けること。</p> <p data-bbox="1543 810 2781 884">(3) 当該駐車施設の床面には「国際シンボルマーク」を、乗降スペース床面には斜線をそれぞれ塗装表示すること。または車止め付近に運転席からも判別できる大きさの標識を設けること。</p> <p data-bbox="1543 974 2781 1047">(4) 当該駐車施設から建物の出入口までの通路は、有効幅を1.2m以上とすること。また段差を設けず、表面を滑りにくい仕上げとすること。</p> |

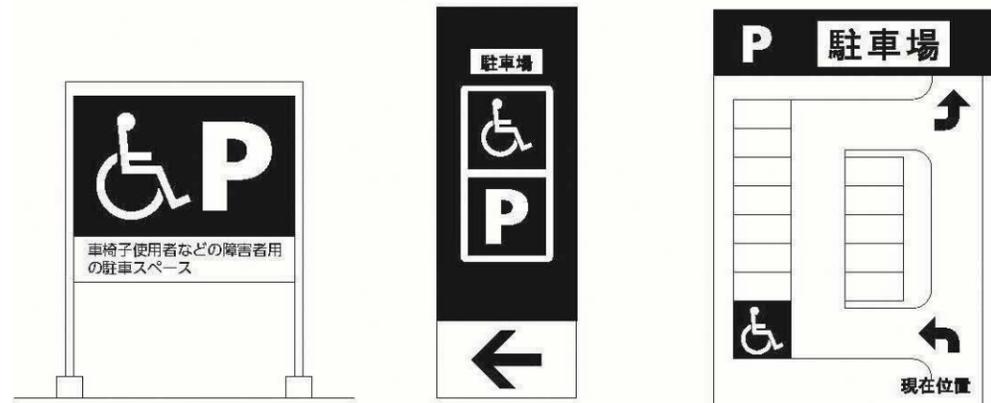
新

《 参考図 》

【図11.1】 駐車場の整備例



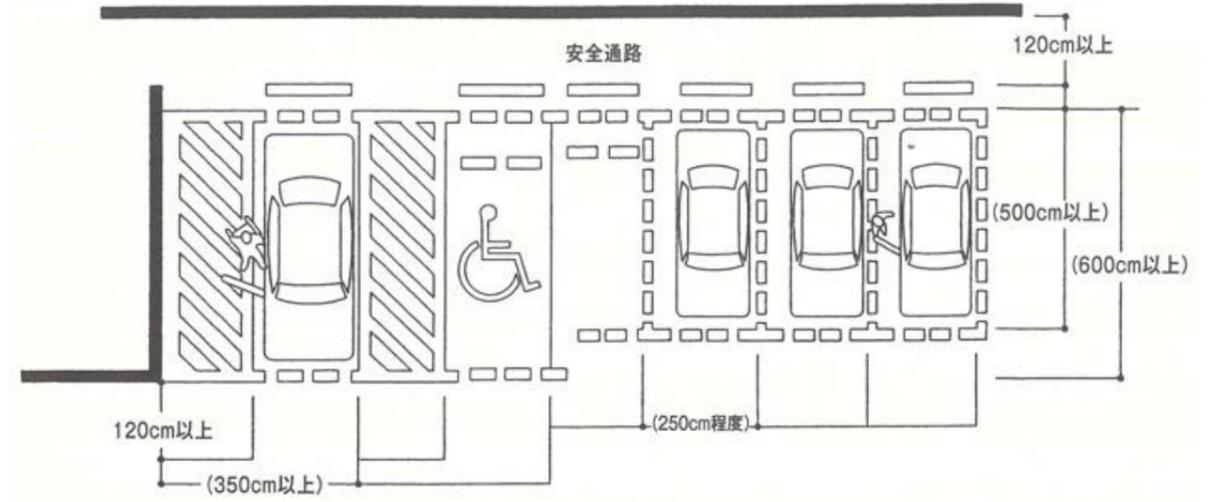
【図11.2】 立札による表示例



旧

《 参考図 》

【図11.1】 両側に乗降用スペースを設けた例 駐車場の整備例



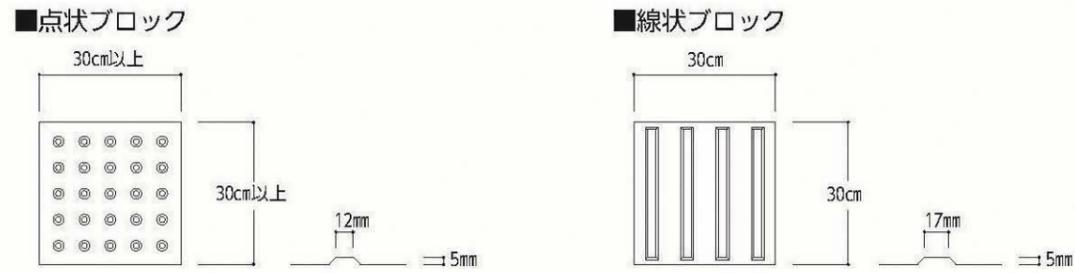
【図11.2】 障害者用駐車スペース標識の例



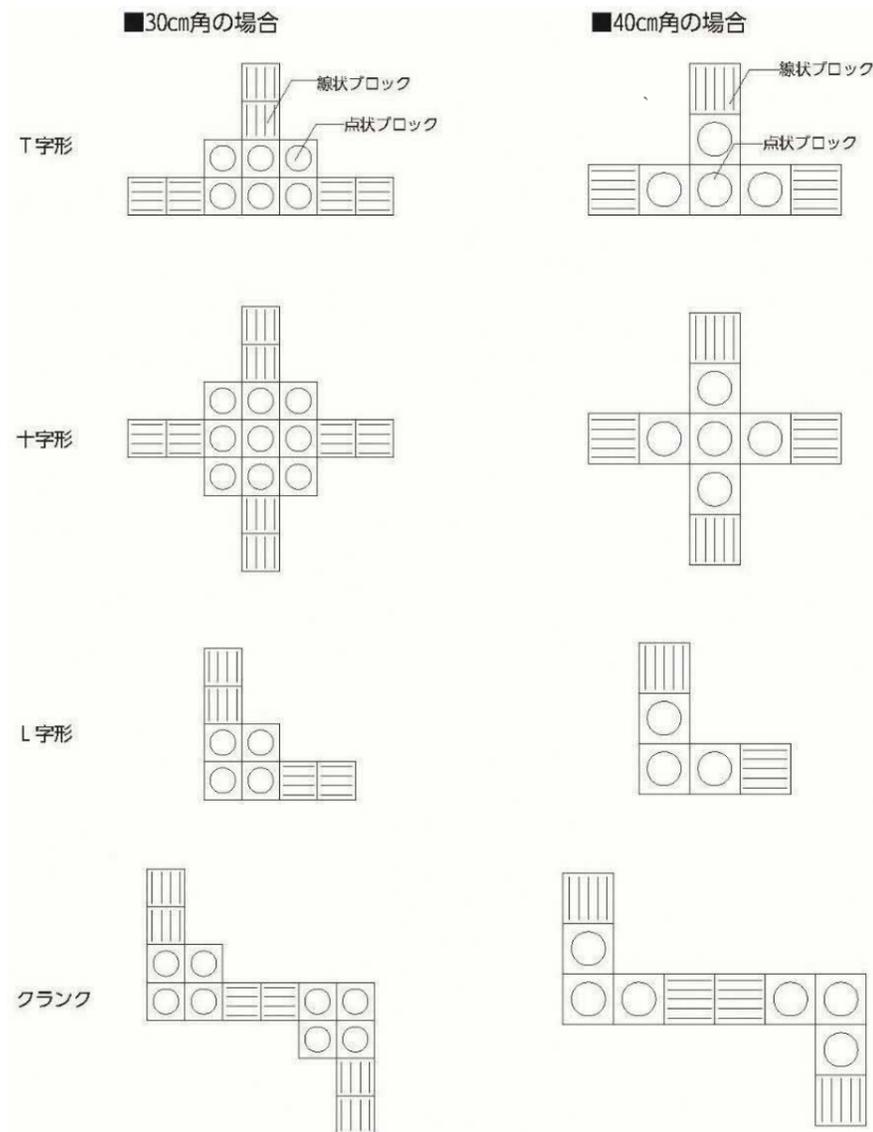
| 新 | 旧 |
|--|---|
| <p data-bbox="201 195 409 233">〔標示・誘導〕</p> <p data-bbox="181 325 338 359">(1) 案内標示</p> <p data-bbox="201 506 1424 579">① 文字や記号は、大きく太い書体や図を用いるなど分かりやすいデザインとすること。また地板の色とコントラストをつけること。</p> <p data-bbox="201 667 813 701">② 必要に応じ、<u>振り仮名や外国語</u>を併用すること。</p> <p data-bbox="201 789 1041 823">③ 表示板は、<u>車椅子</u>使用者にも見やすい位置・高さに取り付けること。</p> <p data-bbox="201 911 1397 945">④ 突出型の室名札を設ける場合は、視覚障害者等の支障とならない位置（高さ2m程度）に設けること。</p> <p data-bbox="201 1033 739 1066">⑤ 照明は、逆光が生じないようにすること。</p> <p data-bbox="181 1155 531 1188">(2) 視覚障害者誘導用ブロック</p> <p data-bbox="201 1276 1421 1350">① 視覚障害者に対する誘導用ブロックは、「誘導用」（移動の方向を示す線状の突起のある線状ブロック）と、「警告用」（注意を喚起する点状ブロック）を用いること。</p> <p data-bbox="201 1438 1172 1472">② 線状ブロックは、誘導方向と線状突起の方向を平行にして連続して敷設すること。</p> <p data-bbox="201 1560 1285 1593">③ 点状ブロックは、段差部分や危険箇所の前面、誘導方向が変化する部分などに敷設すること。</p> <p data-bbox="201 1682 1193 1715">④ 敷設幅は30cm以上とし、原則として湾曲しないよう直線状に連続して敷設すること。</p> <p data-bbox="201 1803 1424 1877">⑤ 色は、弱視者に配慮して黄色を原則とすること。他の色を選択する場合は、路面の色と明度の差が大きい色にする等配慮すること。</p> | <p data-bbox="1558 195 1765 233">〔標示・誘導〕</p> <p data-bbox="1537 325 1694 359">(1) 案内標示</p> <p data-bbox="1558 506 2781 579">① 文字や記号は、大きく太い書体や図を用いるなど分かりやすいデザインとすること。また地板の色とコントラストをつけること。</p> <p data-bbox="1558 667 2199 701">② 必要に応じ、<u>ひらがなやローマ字</u>を併用すること。</p> <p data-bbox="1558 789 2398 823">③ 表示板は、<u>車いす</u>使用者にも見やすい位置・高さに取り付けること。</p> <p data-bbox="1558 911 2754 945">④ 突出型の室名札を設ける場合は、視覚障害者等の支障とならない位置（高さ2m程度）に設けること。</p> <p data-bbox="1558 1033 2095 1066">⑤ 照明は、逆光が生じないようにすること。</p> <p data-bbox="1537 1155 1887 1188">(2) 視覚障害者誘導用ブロック</p> <p data-bbox="1558 1276 2778 1350">① 視覚障害者に対する誘導用ブロックは、「誘導用」（移動の方向を示す線状の突起のある線状ブロック）と、「警告用」（注意を喚起する点状ブロック）を用いること。</p> <p data-bbox="1558 1438 2528 1472">② 線状ブロックは、誘導方向と線状突起の方向を平行にして連続して敷設すること。</p> <p data-bbox="1558 1560 2641 1593">③ 点状ブロックは、段差部分や危険箇所の前面、誘導方向が変化する部分などに敷設すること。</p> <p data-bbox="1558 1682 2552 1715">④ 敷設幅は30cm以上とし、原則として湾曲しないよう直線状に連続して敷設すること。</p> <p data-bbox="1558 1803 2781 1877">⑤ 色は、弱視者に配慮して黄色を原則とすること。他の色を選択する場合は、路面の色と明度の差が大きい色にする等配慮すること。</p> |

| 新 | 旧 |
|--|--|
| <p>(3) 音声誘導装置</p> <p>① 必要に応じて、表示板の位置等を知らせるための誘導鈴を設けること。</p> <p>② 必要に応じて、音声または放送による案内を行うこと。</p> | <p>⑥ 常時勤務する者により誘導することができる場合等、視覚障害者の誘導上支障のない場合においては、視覚障害者誘導用ブロックを敷設する必要はない。</p> <p>⑦ 視覚障害者誘導用ブロックの敷設が、利用者の利用に特に支障をきたす場合には、視覚障害者誘導用ブロックの代わりに音声誘導装置を設置する、もしくは仕上げの色を変える等でも可とする。</p> <p>(3) 音声誘導装置</p> <p>① 必要に応じて、表示板の位置等を知らせるための誘導鈴を設けること。</p> <p>② 必要に応じて、音声または放送による案内を行うこと。</p> |

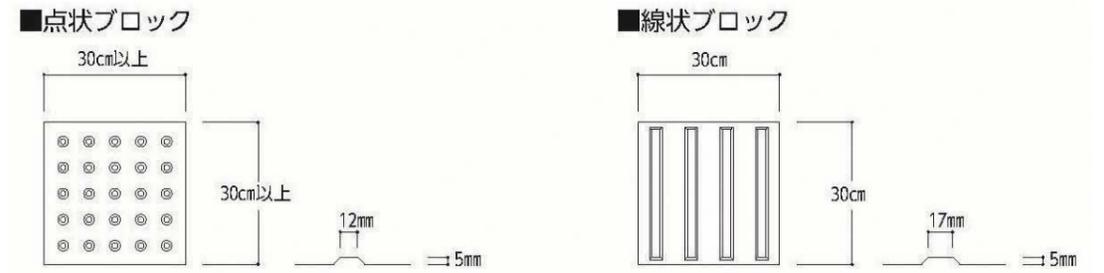
【図12.1】種類 (JIS T 9251による)



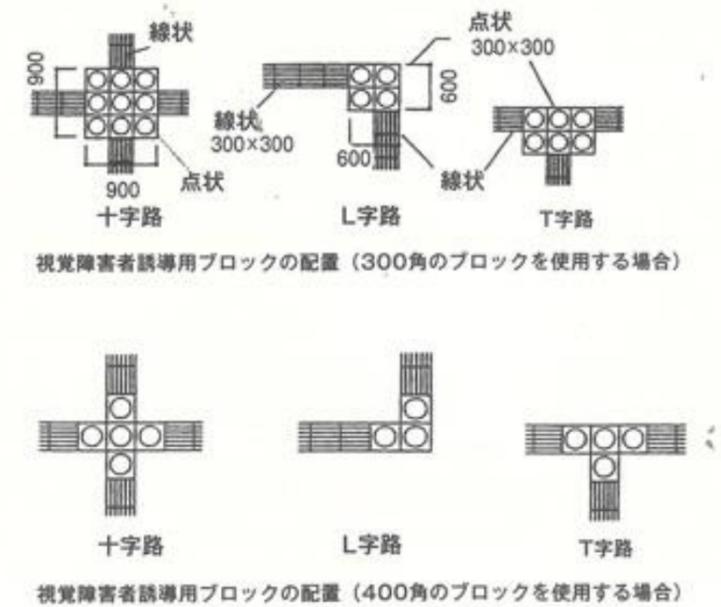
【図12.2】設置例 経路分岐点における標準的な敷設方法の例



【図12.1】種類



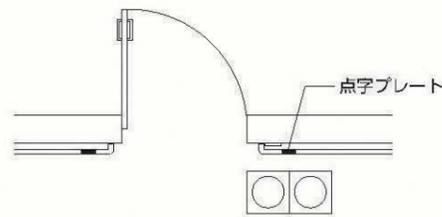
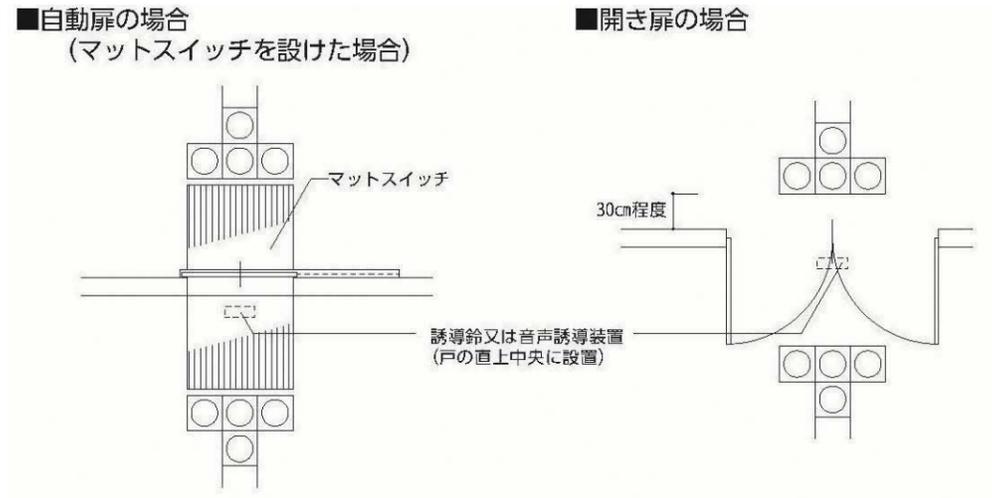
【図12.2】設置例



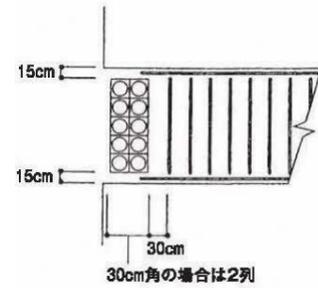
新

〈 参考図 〉

【図12.3】 出入口(玄関)付近での設置例



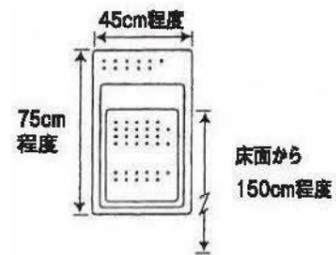
【図12.4】 階段前後での設置例



【図12.5】 触知図の例示の例



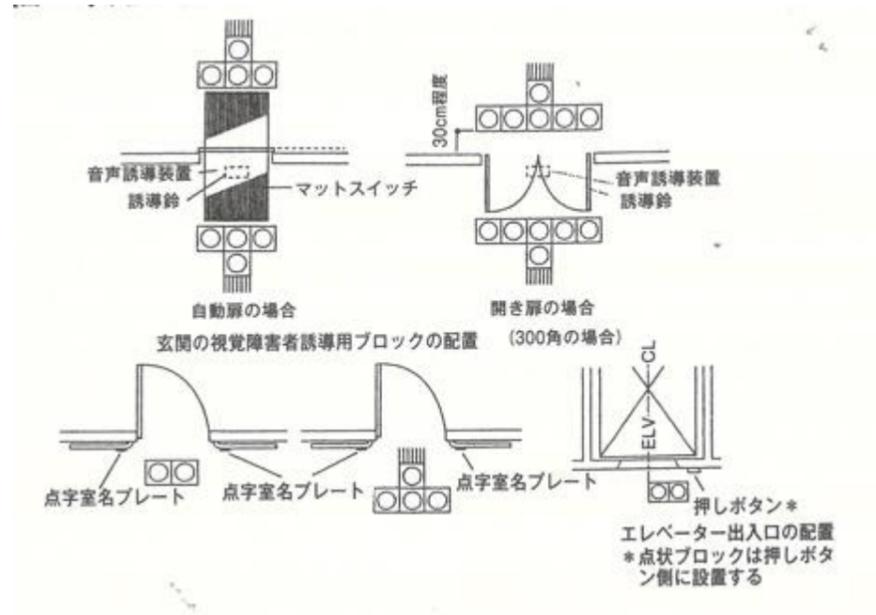
【図12.6】 点字表



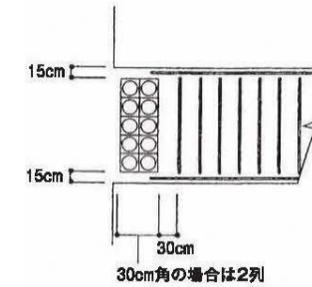
旧

〈 参考図 〉

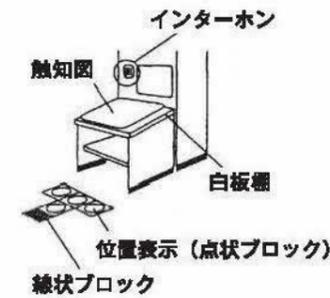
【図12.3】 出入口付近での設置例



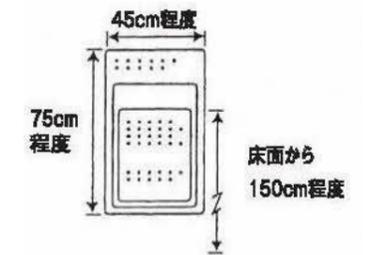
【図12.4】 階段前後での設置例



【図12.5】 触知図の例示の例



【図12.6】 点字表示の例

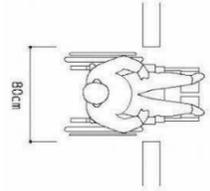


新

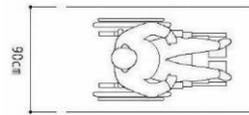
資料

幅員に関する基本的な数値

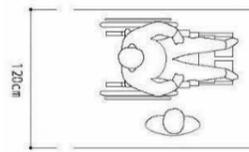
車椅子が通過できる最低幅



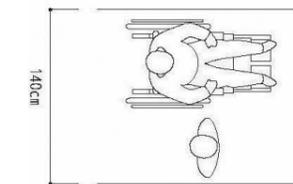
車椅子が通行する場合に必要な最低幅



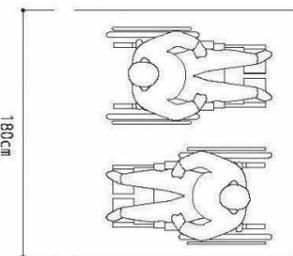
車椅子と横向きの人がすれ違える最低幅



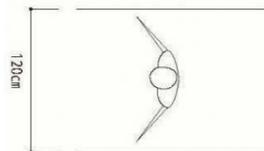
車椅子と人がすれ違える最低幅



車椅子同士がすれ違いやすい幅

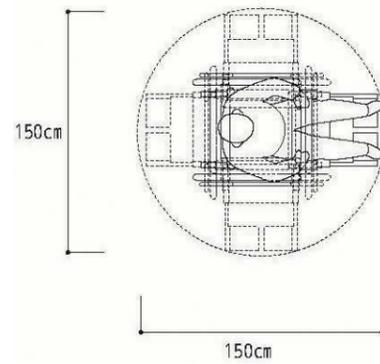


松葉杖使用者が円滑に通行できる幅

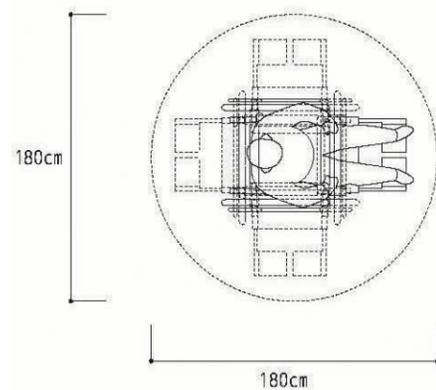


広さに関する基本的な数値

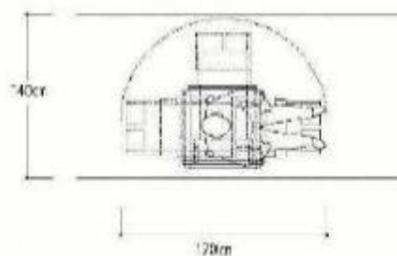
車椅子使用者の転回（360度宝庫転換）できる広さ



車椅子使用者の転回（360度方向転換）しやすい広さ



手動車いす使用者の転回(180度方向転換)できる広さ

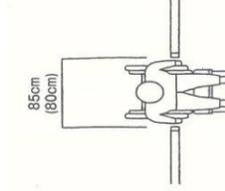


旧

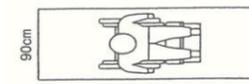
資料

幅員に関する基本的な数値

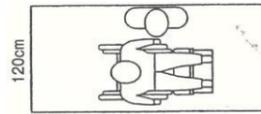
車いすが通過できる最低幅



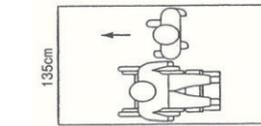
車いすが通行する場合に必要な最低幅



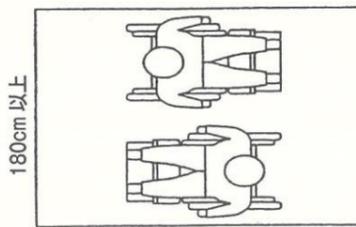
車いすと横向きの人がすれ違える最低幅



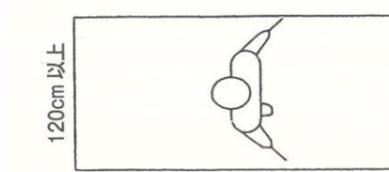
車いすと人がすれ違える最低幅



車いす同士がすれ違いやすい幅

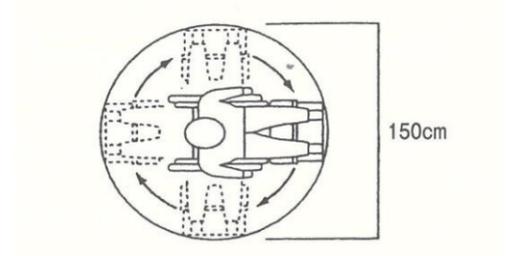


松葉杖使用者が円滑に通行できる幅

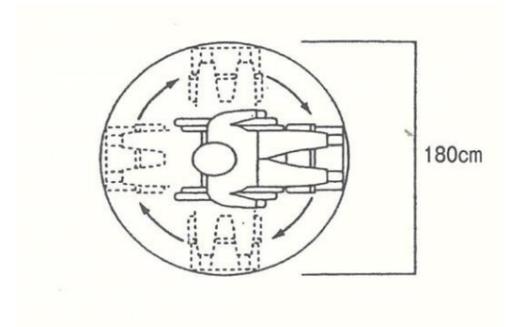


広さに関する基本的な数値

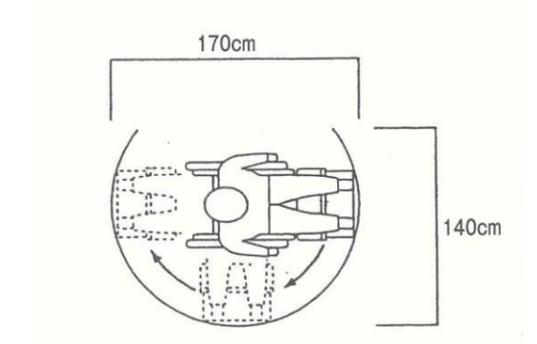
360度方向転換〈手動車いす車椅子〉



360度方向転換〈電動車いす車椅子(標準型)〉



180度方向転換〈手動車いす車椅子・電動車いす(標準型)〉



※参考図と資料は、「東京都福祉のまちづくり条例 施設整備マニュアル」より転載しました。

新

旧

参考図出典元一覧

(東京都施設整備マニュアル令和5年10月改訂版 該当ページ)

※図中の基準値については、区の内容を参照する

| <u>参考図</u> | | | <u>東京都施設整備マニュアル 令和5年10月改訂版</u> | | |
|------------|-------------|---|--------------------------------|-------------|-------------------------------|
| <u>ページ</u> | <u>図表番号</u> | <u>図表名称</u> | <u>ページ</u> | <u>図表番号</u> | <u>図表名称</u> |
| <u>P3</u> | <u>図2.1</u> | <u>戸幅の寸法</u> | <u>P1-197</u> | <u>図2.2</u> | <u>戸幅の寸法</u> |
| <u>P3</u> | <u>図2.2</u> | <u>引き戸への配慮</u> | <u>P1-198</u> | <u>図2.4</u> | <u>開き戸への配慮</u> |
| <u>P3</u> | <u>図2.3</u> | <u>アルコープの各部寸法</u> | <u>P1-198</u> | <u>図2.5</u> | <u>アルコープの各部寸法</u> |
| <u>P4</u> | <u>図2.4</u> | <u>開き戸への配慮</u> | <u>P1-198</u> | <u>図2.6</u> | <u>開き戸への配慮</u> |
| <u>P4</u> | <u>図2.5</u> | <u>車椅子使用者のための開閉スペースの設置</u> | <u>P1-199</u> | <u>図2.7</u> | <u>車椅子使用者のための開閉スペースの設置</u> |
| <u>P4</u> | <u>図2.6</u> | <u>取っ手の使いやすさ</u> | <u>P1-199</u> | <u>図2.8</u> | <u>取っ手の使いやすさ</u> |
| <u>P6</u> | <u>図3.1</u> | <u>傾斜路の仕様</u> | <u>P1-212</u> | <u>図5.1</u> | <u>傾斜路の仕様</u> |
| <u>P6</u> | <u>図3.2</u> | <u>段併設の例</u> | <u>P1-212</u> | <u>図5.2</u> | <u>段併設の例</u> |
| <u>P6</u> | <u>図3.3</u> | <u>踊場の設置例</u> | <u>P1-213</u> | <u>図5.3</u> | <u>踊場の設置例</u> |
| <u>P8</u> | <u>図4.3</u> | <u>車椅子使用者同士がすれ違える寸法 (車椅子使用者と杖使用者がすれ違える寸法)</u> | <u>P1-38</u> | <u>図3.2</u> | <u>車椅子使用者同士がすれ違える寸法</u> |
| <u>P8</u> | <u>図4.4</u> | <u>壁面の配置例</u> | <u>P1-38</u> | <u>図3.3</u> | <u>壁面の配置例</u> |
| <u>P8</u> | <u>図4.5</u> | <u>廊下に柱型等が出ている場合の手すりの設置例</u> | <u>P1-39</u> | <u>図3.4</u> | <u>廊下に柱型等が出ている場合の手すりの設置例</u> |
| <u>P8</u> | <u>図4.6</u> | <u>キックプレートの設置例</u> | <u>P1-39</u> | <u>図3.5</u> | <u>車椅子あたり(キックプレート)の設置例</u> |
| <u>P8</u> | <u>図4.7</u> | <u>廊下の角の例</u> | <u>P1-39</u> | <u>図3.6</u> | <u>廊下の角の例</u> |
| <u>P10</u> | <u>図5.1</u> | <u>階段の基本的な考え方</u> | <u>P1-207</u> | <u>図4.1</u> | <u>階段の基本的な考え方</u> |
| <u>P10</u> | <u>図5.2</u> | <u>路面端部の例</u> | <u>P1-208</u> | <u>図4.3</u> | <u>踏面端部の例</u> |
| <u>P10</u> | <u>図5.3</u> | <u>けあげ、路面の形状</u> | <u>P1-208</u> | <u>図4.4</u> | <u>けあげ、路面の形状(つまずきにくい構造の例)</u> |
| <u>P10</u> | <u>図5.4</u> | <u>路面端部の例</u> | <u>P1-208</u> | <u>図4.5</u> | <u>踏面端部の例</u> |

| 新 | | | | | | 旧 | | | | | |
|-----|-------|--|-------------------------|-------|---|---|--|--|--|--|--|
| P10 | 図5.5 | 階段の形状 | P1 - 209 | 図4.6 | 階段の形状 | | | | | | |
| P10 | 図5.6 | 視覚障害者に対する階段下の安全確保の措置の例 | P1 - 209 | 図4.7 | 視覚障害者に対する階段下の安全確保の措置の例 | | | | | | |
| P13 | 図6.1 | 壁面の設置例 | P1 - 175 | 図27.2 | 壁面の設置例 | | | | | | |
| P13 | 図6.2 | 手すりの形状 | P1 - 175 | 図27.3 | 手すりの形状 | | | | | | |
| P13 | 図6.3 | 階段の手すりの例 | P1 - 176 | 図27.4 | 階段の手すりの例 | | | | | | |
| P13 | 図6.4 | 傾斜路の手すりの例 | P1 - 176 | 図27.5 | 傾斜路の手すりの例 | | | | | | |
| P13 | 図6.5 | 階段手すりと点字表示取付例 | P1 - 176 | 図27.7 | 階段手すりと点字表示取付例 | | | | | | |
| 参考図 | | | 東京都施設整備マニュアル 令和5年10月改訂版 | | | | | | | | |
| ページ | 図表番号 | 図表名称 | ページ | 図表番号 | 図表名称 | | | | | | |
| P17 | 図7.1 | 車椅子使用者用便房の例（内法200cm×200cm以上の場合） | P1 - 229 | 図8.2 | 車椅子使用者用便房の例（内法200cm×200cm以上の場合） | | | | | | |
| P17 | 図7.2 | 内法 200cm x 200cm以上のスペースが確保できない場合の策（簡易型車椅子使用者用便房の例） | P1 - 230 | 図8.3 | 簡易型車椅子使用者用便房の例 | | | | | | |
| P18 | 図7.4 | 便房内の身づくろい用鏡の高さの例 | P1 - 88 | 図8.14 | 便房内の身づくろい用鏡の高さの例 | | | | | | |
| P18 | 図7.8 | ベビーチェアの例 | P1 - 154 | 図18.4 | ベビーチェアの例 | | | | | | |
| P18 | 図7.9 | ベビーベッドの例 | P1 - 154 | 図18.5 | ベビーベッドの例 | | | | | | |
| P18 | 図7.10 | ベビーチェア・ベビーベッドのレイアウト例 | P1 - 154 | 図18.3 | ベビーチェア・ベビーベッドのレイアウト例 | | | | | | |
| | | | P1 - 155 | 図18.6 | 便房内にベビーベッド、ベビーチェアを設ける例 一般便房内に設ける場合 | | | | | | |
| P19 | 図7.11 | 車椅子使用者用便房に設ける場合の例 | P1 - 155 | 図18.6 | 便房内にベビーベッド、ベビーチェアを設ける例 車椅子使用者便房内に設ける場合 | | | | | | |
| P19 | 図7.12 | 授乳及びおむつ替えの場所の例（複数利用の場合） | P1 - 153 | 図18.1 | 授乳室（複数利用）の配置例 | | | | | | |
| P19 | 図7.13 | 授乳及びおむつ替えの場所の例（個人利用の場合） | P1 - 153 | 図18.2 | 授乳室（個人利用）の配置例 | | | | | | |

| 新 | | | | | | 旧 | | | | | |
|-----|-------|-------------------|-------------------------|-------|--------------------------------|---|--|--|--|--|--|
| P19 | 図7.14 | 案内表示の例 | P1-155 | 図18.7 | 表示例 | | | | | | |
| P21 | 図8.1 | 大便器の手すりの例 | P1-233 | 図8.9 | 大便器の手すりの例 | | | | | | |
| P21 | 図8.2 | 小便器の手すりの例 | P1-233 | 図8.10 | 小便器の手すりの例 | | | | | | |
| P23 | 図9.1 | エレベーターの平面図 | P1-217 | 図6.1 | エレベーターの平面図 | | | | | | |
| P23 | 図9.2 | 籠内の断面図 | P1-218 | 図6.3 | 籠内の断面図 | | | | | | |
| P23 | 図9.3 | エレベーターの出入口（乗り場） | P1-217 | 図6.2 | エレベーターの出入口（乗り場） | | | | | | |
| P25 | 図10.1 | エスカレーターの例 | P1-223 | 図7.4 | エスカレーターの例 | | | | | | |
| P26 | 図10.2 | 斜行型段差解消機 | P1-222 | 図7.1 | 斜行型段差解消機 | | | | | | |
| P26 | 図10.3 | 垂直型段差解消機 | P1-222 | 図7.2 | 垂直型段差解消機 | | | | | | |
| P26 | 図10.4 | 籠の大きさ | P1-222 | 図7.3 | 籠の大きさ | | | | | | |
| P28 | 図11.1 | 駐車場の整備例 | P1-246 | 図11.4 | 駐車場の整備例 | | | | | | |
| P28 | 図11.2 | 立札による表示例 | P1-247 | 図11.5 | 立札による表示例 | | | | | | |
| P31 | 図12.1 | 種類(JIS T 9251による) | P1-255 | 図14.4 | 種類(JIS T 9251による 資-224～226 参照) | | | | | | |
| 参考図 | | | 東京都施設整備マニュアル 令和5年10月改訂版 | | | | | | | | |
| ページ | 図表番号 | 図表名称 | ページ | 図表番号 | 図表名称 | | | | | | |
| P31 | 図12.2 | 設置例 | P1-255 | 図14.5 | 経路分岐点における標準的な敷設方法の例 | | | | | | |
| P32 | 図12.3 | 出入口（玄関）付近での設置例 | P1-141 | 図16.2 | 出入口(玄関)付近での設置例 | | | | | | |
| P33 | 資料 | 幅員に関する基本的な数値 | 資-242 | 図3 | 車椅子使用者の動作寸法 | | | | | | |
| | | 広さに関する基本的な数値 | 資-243 | 図4 | 手動車椅子使用者の転回（180度方向転換）できる広さ | | | | | | |
| | | | 資-243 | 図5 | 車椅子使用者が回転（360度）できる広さ | | | | | | |
| | | | 資-243 | 図6 | 車椅子使用者が回転（360度）しやすい広さ | | | | | | |
| | | | 資-243 | 図7 | 松葉杖使用者が円滑に通行できる幅 | | | | | | |